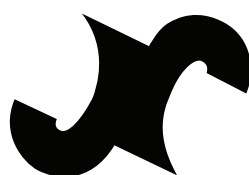


日本商工会議所青年部
25周年記念誌



YEG

W e C a n D o I t . 今 行 動 !
全 て は 愛 す る 地 域 の た め に



はじめに	
25周年特別委員会 委員長 木下 徳 泰 (七尾YEG)	
目次	
ご祝辞・ごあいさつ	01
日本商工会議所 会頭 岡村 正 氏	
日本商工会議所 青年部 平成14年度 会長 大脇 唯 眞 氏 (鹿児島YEG)	
日本商工会議所 青年部 平成15年度 会長 鈴木 悌 介 氏 (小田原箱根YEG)	
日本商工会議所 青年部 平成16年度 会長 小園 浩 幸 氏 (高石YEG)	
日本商工会議所 青年部 平成17年度 会長 荒濱 健 太 朗 氏 (米子YEG)	
日本商工会議所 青年部 平成18年度 会長 國枝 恭 二 氏 (帯広YEG)	
日本商工会議所 青年部 平成19年度 会長 原田 隆 司 氏 (豊田YEG)	
平成14年度～18年度事業紹介	08
平成14年度	
会長所信／年間事業年表／年間事業概要・YEG大賞	
平成15年度	
会長所信／年間事業年表／年間事業紹介・YEG大賞・YEGビジネスプランコンテスト	
平成16年度	
会長所信／年間事業年表／年間事業紹介・YEG大賞・YEGビジネスプランコンテスト	
平成17年度	
会長所信／年間事業年表／年間事業紹介・YEG大賞・YEGビジネスプランコンテスト	
平成18年度	
会長所信／年間事業年表／年間事業紹介・YEG大賞・YEGビジネスプランコンテスト	
提言活動	30
提言書／要望書／地方幹線道路等の早期整備に関する提言	
大会宣言紹介	31
愛知宣言／大分宣言／いしかわ加賀宣言	
中長期ビジョン (YEG中長期ビジョン提言会議より)	32
国際交流の流れ	34
アジア商工会議所連合会(CACCI)第69回理事会および第20回総会 (ニューデリー)	
アジア商工会議所連合会(CACCI)設立40周年記念第20回総会および第71・72回理事会 (台北)	
アジア商工会議所連合会(CACCI)第73回CACCI理事会 (パース)	
故郷の新しい風会議	40
YEG東京サミット	42
式典／記念講演／第一分科会／第二分科会／第三分科会／懇親パーティー／総括	
平成19年度事業年表	47
平成19年度委員会紹介	48
総務委員会／企画委員会／研修委員会／公報委員会／中長期ビジョン提言会議／25周年特別委員会	
出向者名簿	50
二重橋倶楽部	54
あとがき	55

日本商工会議所 会頭

岡村 正



ご祝辞

日本商工会議所青年部の設立25周年を心からお祝い申し上げます。

日本商工会議所青年部は、昭和58年に発足して以来、今や全国で400ヶ所、2万6000人の会員を擁する大きな組織に発展しました。年を重ねるごとに活動の幅を広げ、近年では政策提言活動やアジア諸国の青年経済人との連携等にも力を入れるなど、時代とともに活動内容も大きく変化し、大変頼もしく感じております。

また、青年部の皆様には、社業の発展に取り組まれるとともに、商工会議所の諸活動にも積極的に参加いただいております。心から敬意と感謝を申し上げます。

ご高承のとおり、わが国経済は、全体的には回復基調にありますが、地域経済や中小企業では、依然として厳しい状況が続いており、企業間、地域間における格差の拡大が懸念されております。一方、経済のグローバル化、情報化、ニーズの多様化など、企業を取り巻く環境は急速かつ大きく変わってきており、これらの潮流への対応が迫られております。

このように、経済社会が大きく変化する中で、個々の企業が独自の強みを存分に発揮できる自由で活力ある経済社会を構築すること、また、個々の従業員が生き生きとその能力を発揮できることが、日本経済の活力向上につながると思います。こうした経済社会の構築に向けて、全国の商工会議所の力を結束し、国や自治体が取り組むべき施策を積極的に提言するとともに、個々の企業の経営課題に対してきめこまかく対応し、中小企業の活力強化と地域経済の活性化を実現することが、商工会議所にとって、今まさに求められている課題だと考えます。全国の商工会議所、会員企業、そこで働く人々、そして日商自身が、勇気を持ってイノベーションを絶え間なく引き起こし、「個の光」を存分に輝かすことが重要であります。私は先頭に立って、全国の商工会議所ならびに会員企業の皆様のイノベーション、すなわち「勇気ある挑戦」が実現するように、粉骨砕身、努力してまいります。青年部の皆様においても、柔軟な発想とエネルギッシュな行動力をもって、自企業をはじめ、青年部、商工会議所、さらには地域のイノベーションに対し、大いにリーダーシップを発揮していただきますよう、切にお願いいたします。

結びに、この記念すべき25周年の節目を契機として、青年部の皆様が持前の強力なネットワークを活用し、会員相互の連携を一層強めるとともに、従来にも増して活発な事業活動を展開されますよう、心からご期待申し上げます。

日本商工会議所青年部 平成14年度会長

大脇 唯真 (鹿児島YEG)



ごあいさつ

二十五周年、まずもって心よりお慶び申し上げます。

平成十四年度に私が会長を仰せつかった当時でいう商青連が成人の日の日を見る事の出来た晴れの門出から早や五年、時の流れの凄まじい速さを痛切に感じているところで御座います。

日商の岡村正新会頭が提唱されております言葉に、『個』が光るイノベーション！とありますが、私も正にこれからの時代に相応しいお言葉であると賛同致します。

一人一人の、一企業の、一地域の力がある意味試されるそんな時代への突入ではないかと確信致します。

私が言い続けてきた言葉の中に「一生（所）懸命やれば知恵が出る！中途半端にやれば、愚痴が出る！いい加減にやると言い訳しか出てこない！」いみじくも言わせて頂きました。

皆さん、これからは多彩な知恵や工夫で一つ一つの物事に丹念にしっかりと本気印の汗を流し、一生（所）懸命になって取り組んでいこうではありませんか。

そこにはきっと輝かしく光る企業が、地域が、国家が、待っているものと信じて疑いません。

末筆となりますが、名称も新たに、日本YEGとしてこの記念すべき二十五周年を迎えられた喜びに私も感無量の念を抱いております。どうかこの一歩を大きな足跡として残して頂きつつ更に三十周年、四十周年に向けてダイナミックに躍進頂きますようお願い致しますと同時に、日本YEGの皆様のご活躍とそれぞれの企業の御繁栄と御家族又社員の皆様、そして各地域の商工会議所の青年部担当職員の皆様の益々のご健勝とご多幸を心から御祈念申し上げまして、二十五周年のお祝いのメッセージとさせていただきます。

日本商工会議所青年部 平成15年度会長

鈴木 悌介 (小田原箱根YEG)



ごあいさつ

栄えある日本YEGの25周年を記念するこの冊子に寄稿させていただけることの僥倖を今、嘸み締めております。

私は、YEGの活力の源泉はその構成員がある年齢によって卒業し入れ替わる、いわば、新陳代謝する組織だということにあるように思います。その時代に、一番何か言いたくて、実行したくて、という高いエネルギーを持った青年経済人達が、自由に意見を披瀝し、大胆に行動し、その中でたくさんの同志を得、たくさんの学びを得る。YEGとはそんな場であるべきだと考えます。そして、それを全国という場で実践するチャンスを提供するのが日本YEGの役割だと思います。大変嬉しいことに、日本YEGは今、確実にその役割を実行し、さらにその幅と深みを広げていると思います。

これはひとえに、熱き思いでこの会を立ち上げてくださった先人と、その意を繋いでこの会を発展させることに尽力くださった先輩のおかげであります。改めて、敬意と感謝を表したいと存じます。その間、お支えいただいた日本商工会議所の歴代の会頭様はじめ、役員の方々、そして事務局の皆様にも、心からの感謝を申し上げます。

日本YEGは、地域のYEG活動のサポーターであり、パートナーであり、時にはメンターであるべきだと思います。そのために日本YEGの活動がますます充実されることを期待申し上げます。

日本YEGから教えていただいた学びと日本YEGで得た同志とのネットワークを活かし、それぞれの地元の商工会議所にて活躍することが日本YEGへの恩返しと受け止め、努力することを、YEGの一卒業生としてお約束いたしたく存じます。「自分から、自分らしく、皆のために」をいつも心で繰り返しながら。

日本商工会議所青年部 平成16年度会長

小園 浩幸 (高石YEG)



ごあいさつ

日本YEGが設立25周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

日本YEG会長という自分の想像をはるかに超えた忙しい職務に紛れ、果たして本当にどこまで自分の思いに到達することができたのか、どれほど全国のYEG会員の皆様のお役に立てたのか、と未だに自問自答をしております。

そして、全国のYEGの皆様からいただきましたご理解、ご支援、ご指導のひとつひとつが私にはありがたい励ましと戒めであり、力の源泉になりました。私にとっては激動の日々であった16年度の月日は、得がたい経験の連続でありました。お陰様にて各地各界の多くの人々とお会いすることが出来、多くのYEGの仲間と語り合い、喜び合い、笑い合い、共に嬉しい涙も悲しい涙も流しました。そして、「感謝」という言葉が素直に私の心の中に溢れております。

また、16年度は、何かと災害の多い年でもあり、新潟と福井県の集中豪雨、台風による各ブロック内の水害、そして新潟中越地震などがありました。全国のYEGの皆様にも多くの義援金や物資、そして人的活動にご協力をいただき、感謝いたしております。

しかし、商青連は明るさを失うことなく、いや、より一層の明るさを心がけ、地域経済の活性化に向けた全国各地YEGの単会活動をバックアップすべく、また、各地YEG会員の皆様の個々のビジネスのサポートのために、そして「美しい日本」の創造をめざし、精一杯の活動を続けて参ったつもりでございます。これからのYEGの進むべき方向性や日本YEGの課題といったものを明らかにすることはできたのではと思います。「全国大会」、「全国会長研修会」の開催時期も含めたその在り方の見直し。導入したWEB上のグループウェアである「エンジェルタッチ」と「ご縁満開YEGビジネスサイト」をもっと分かりやすく使いやすいように。「ビジネスプランコンテスト」をもっと多くの会員が興味を持ち、自社のビジネスの活性化に活かしてもらえるように。「YEG事業データベース」を拡充して「YEG大賞」を単なる表彰事業から事業企画・運営のノウハウ共有の場に。全国組織だからこそその研修事業を。「コミュニティビジネス」の振興を。などなど枚挙に遑がありません。

そして、このこと総てが平成16年度日本YEG出向者全員の力によるものと感謝しています。これからも、連合会として期待される日本YEGとして邁進していきます事をお願いし25周年の祝辞に代えさせていただきます。

日本商工会議所青年部 平成17年度会長

荒濱 健太郎 (米子YEG)



ごあいさつ

日本商工会議所青年部設立25周年の記念すべき年を迎えられましたこと、平成17年度日本YEG全出向者を代表し、心からお祝い申し上げます。

そして、改めて日本商工会議所青年部会長を務めさせて頂き多くのYEG仲間と出会い、かけがえのない貴重な体験をさせて頂きましたことに御礼申し上げます。

平成17年度は、『豊かな地域の創造！ YEG Renovation!』のスローガンを掲げ、地域の視点で、地域あつての日本、地域を最優先に見つめた日本YEGの活動こそが、時代背景から導き出される唯一の進むべき道だと考え、組織・活動の現状を見つめなおし、変えるべきは改革し、継続すべきはさらに進化を図り、効率的かつYEGとそのメンバーの発展と「豊かな地域の創造」のために、より利用価値の高い組織となるようリノベーションの確実な一歩を踏み出そうと活動をさせて頂きました。

春の会長会議では、意見交換を重視して活発なディスカッションを行いました。

11月には、初の試みとして、会員総会、全国会長会議、そして研修事業である翔生塾を一体化させたYEG東京サミットを開催しました。一年を通じて新設したYEG未来創造委員会で全国大会・全国会長研修会・会員総会等の主要主催事業の年間サイクルを見直し、平成21年度からは、新サイクルで行うことを決議し総会で報告しました。

また、懸案であった会の表記・呼称を改め、それぞれ「日本商工会議所青年部」、「日本YEG」と決めました。17年度に取り組んできた様々な試みが、将来の日本YEG活動に、少しでも役立てば、幸甚に存じます。

全国を回り、懸命に企業活動を行いながら地域を支え、まちづくりをしている400YEGの姿に触れさせて頂き、多くの感動を頂き、改めて、地域においてYEGの大きな可能性を実感させて頂きました。

YEGの皆様！25年の歴史を尊重して、この記念すべき年をその契機として捉え、出会いの機会を大切に、夢を語り合い、語り合った夢を実現するべく、切磋琢磨し、まちづくりの成功事例やビジネスの最先端情報を共有し、400YEG・2万6000の企業と地域経済の発展、豊かな郷土づくりのために、新たな歴史へ歩を進めようではありませんか。

最後に、今日までの日本YEGを築いてこられた諸先輩方、ご協力頂きました関係各所、ご尽力頂いた全ての皆様方に感謝を申し上げ、日本YEGの仲間にご下記メッセージを添え、挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

人に何かをしてもらったときより
 人に何かをしてあげて
 感謝されたときのほうが 嬉しい
 それが誰かのためになるなら
 もう少し頑張ってみようよ 力が湧いてくる
 人の役に立つこと 人のために尽くすこと
 それは あなたの心を豊かに変えてくれる
 真の喜びは「与える」ことから生まれる

日本商工会議所青年部 平成18年度会長

國枝 恭二 (帯広YEG)



ごあいさつ

日本YEG設立25周年という記念すべき年を迎えお祝い申し上げます。また、商青連創生期から「地域に貢献するYEG」を目指し、手探り状態の中で様々な活動に取り組み、今日までYEGを営々と引き継ぎ育ててこられました先輩、諸兄の皆様にご敬意を表しますと共に心より感謝を申し上げます。

皆様御承知の通り世界経済はグローバル化し、日本も輸出系大企業を中心に好調を維持していると聞きます。しかし一方では少子高齢化と相まって地域経済は縮小し、かつてないほど厳しい時代を迎えつつあるのも事実です。地域によってはその存続さえも危ぶまれるところも多数あるのではないのでしょうか。

しかしこのような時代、地域という場所の役割や価値、地域の実情が政治に反映されにくい今だからこそ中小企業や地域の声を集約し行政や関係諸機関に働きかける商工会議所の役割はかつてないほど大きくなってきたと感じております。そしてこの時に日本YEGで様々な学び、気づき、人の絆を構築されてきたYEGのOB世代や現役メンバーが全国各地で商工会議所や政治に積極的に関わり始めたとの話を聞くと非常に頼もしく感じると共に先輩諸兄が築いて来られたこの組織がいよいよ真価を発揮すべき時が来たのだと感じます。東京が頭脳ならば中核都市は五臓六腑、流通やネットワークで経済という血液をまわし、地域という五感、中小企業という細胞すべてがいつでもしっかり機能しないと日本はやがて別なものになるような気がします。地域が元気であってこそ日本経済は活性化し、それが世界の中で勝負出来る日本のあるべき姿なのだと思います。この25周年をひとつの区切りとし、視線はすでに次の時代に向け、地域のため、中小企業のためにさらに行動する日本YEGであってほしいと思います。最後になりましたが常日頃よりYEGに対して御支援いただいております商工会議所の皆様、関係各位に感謝を申し上げ御挨拶とさせていただきます。

日本商工会議所青年部 平成19年度会長

原田 隆司 (豊田YEG)



ごあいさつ

私たちの国「日本」は、四季折々の自然や風土、そして情緒に溢れ、特色ある「地域」によって形成されています。そこには、心優しく思いやりがあり、義理人情に厚く、愛する人のために、また正義のために立ち向かう勇敢な人々が、笑顔で明るく暮らしています。

バブル崩壊から十数年、私たちの住む「地域」はかつて経験をしたことがないほど大きく変化し、海外移住者の増加や在日外国人の存在が身近になり、国際化がスピードを上げて進んでいます。高度情報社会の急激な進展による時間的空間的価値観の変化、少子高齢化による就業人口の減少と教育・福祉対策、そして地方分権政策の進行に伴う地域間格差等々、私たちを取り巻く環境は決して安穏としてはいられない状況となっています。

また、地方分権政策に伴い、市町村合併がさらに進み、いずれは道州制が導入されることとなるでしょう。そうしたかつてない大きな変化の前に、各単位YEGをはじめとし、各道府県連YEGの重要性、各ブロックYEGの本質をさらに検証し、他の若手青年団体とも連携しながら、地域におけるYEGのあり方、広域行政区に対してのYEGのあり方を再度見直していく時期にさしかかっていると思います。自主自立を求められる社会において、行政からの助成金等についても見直されており、今後はYEGをそれに頼らない組織へ再構築することも必須の課題となるかも知れません。

特に「格差」の問題は、「地域」に暮らし活動するYEGにとって身に迫りくる大変重要な課題です。しかし、民主主義である日本が、改革を進めることによって起こる「格差」を批判することは、改革そのものを否定することになるのではないのでしょうか。今後の日本は、国民にも地方にも「多様性、独創性」が必要不可欠であると思います。それぞれの地域で活躍しているYEGが、地域の特色をさらに活かし、その地域にしか成しえない独特な個性こそが、本当に必要とされていると思います。格差を批判するのではなく、その格差に各地域がどう対応し活動していくかが、私達YEGの役割だと考えます。急速な少子化や労働力不足に対応すべく、地域の役割も重要な局面を迎えています。国がやってくれるだろう、行政が何とかしてくれるだろう、人任せで無責任な時代はすでに終わり、私達YEGがそれぞれの地域に責任と誇りを持ち、愛する地域を真剣に考え「行動を起こす事」それが最も重要と考えます。

また、平成19年度は、全国商工会議所青年部連合会設立から25周年の節目の年であります。さらに平成21年度からは日本YEG主催事業である「全国大会」、「全国会長研修会」の開催サイクルも見直されるなど、組織の仕組みが大きく変わろうとしています。我々は変動するYEGを、そして今後の日本YEGが進むべき方向を、全国各地で活躍されているYEG会員の皆さんと一緒に検証し、真剣に考え、提言、行動してまいります。変化が求められるこの時代に、我々青年経済人YEGに今必要なのは、常に夢に挑み続ける行動力です。人と人との絆を大切に、それぞれが研修・研鑽し、今できることを今しなければならぬのです。

“「We Can Do It. 今行動！」全ては愛する地域のために”

さあ、手を取り合い、明るい未来を共に築いていこうではありませんか。



"立ち止まるな！そして胸を張れ！
YEGs, be ambitious!"

日本商工会議所青年部
平成14年度 第20代会長

大脇 唯真

基本方針

本年度、商青連は発足以来、満20歳の年を迎えます。又、昨年度は、晴れて日本商工会議所の定款に青年部が詠われた記念すべき年でありました。これまで、多種多様な困難を乗り越えて来られた諸先輩の御苦勞の末に辿り着いたものと認識し、多くの先輩方のご尽力と功績に対し、心より敬意を表し深く感謝申し上げます。商青連20周年を迎える本年、全国の青年部はその位置付けをしっかりと認識し、如何に有効にそして意義有るものにするべきかを真剣に考え、21世紀の羅針盤を創り上げなくてはならないと思います。

私がかねがね会社でも足跡をしっかりと残せる人間になればと社員に言い伝えます。経済の閉塞感が加速度を増し、失業率も過去最悪の数字を示す等忌まわしい時代ではありますが、その暗闇を打破し、明るい展望を示し若さと情熱の迸りを発信するのが、我々商工会議所青年部の務めであり、大きな役割と確信します。今年度の足跡として、全国30,000人の青年部のメンバーが前向きに、そして飾らずありのままのスタイルで己の地域に或いは己の企業に対し自慢の出来る特性を持ち、そこには自らが胸を張り、地に足を根付かせ歩むことが今、望まれているのであります。その中に於いて商青連という土壤が全国YEGの事業を伸ばす肥料（こやし）としての役目を果たし大きな活力源ともなり、明日への、未来への糧となるものと考えます。日本列島を烈火の如く包み込む、不況というこのバックドラフト現象を全国のYEGが一丸となり、鎮火させる意気込みをもって頑張ろうではありませんか。今年度も素晴らしいスタッフの下、会員の為新たなチャレンジ、そして果敢なトライを目指し、勇気を持って全員スクラムで取り組んで参りたいと思っております。「一人がみんなの為に、みんなが一人の為に！one for all、all for one！」のスピリッツを持ち、既成の枠組みにとらわれることなく、連帯の証となる「夢に挑む！」という合い言葉をかざし突き進む所存で御座います。

最後に商工会議所の名に懸けて、YEG一人一人に“飛躍”と言う2文字が宿り、青年経済人の団体としてその責任を果たすべく、活動して参りますことをお約束し所信とさせていただきます。

“飛躍” = 大志を持って、夢に挑む

(平成14年度資料より抜粋)

平成14年度 事業年表

月	日	内容(開催地)	月	日	内容(開催地)
4月	13日(土)	四国ブロック会長会議(高知)	10月	3日(木)～4日(金)	東北ブロック大会(福島)
	18日(金)～19日(土)	第137回役員会等(鹿児島)		10日(木)～11日(金)	北陸信越ブロック大会(諏訪)
	20日(土)	九州ブロック会長会議(鹿児島)		18日(金)～19日(土)	中国ブロック大会(広島)
	26日(金)	東北ブロック会長会議(弘前)		23日(水)～24日(木)	第140回役員会等(東京)
	27日(土)	北海道ブロック会長会議(帯広)	11月	8日(金)～9日(土)	第22回全国大会(守口門真)
5月	22日(水)	中国ブロック会長会議(広島)			第37回会員総会(守口門真)
	24日(金)～25日(土)	第138回役員会等(守口門真)			第141回役員会等(守口門真)
6月	1日(土)	関東ブロック会長会議(沼津)	12月	13日(金)	第142回役員会等(東京)
	6日(木)	北陸信越ブロック会長会議(諏訪)	1月		
	7日(金)	東海ブロック会長会議(松坂)	2月	7日(金)～8日(土)	第21回全国会長研修会(柏)
7月	13日(土)～14日(日)	九州ブロック大会(枕崎)			第38回会員総会(柏)
	23日(水)～24日(木)	第139回役員会等(東京)			第143回役員会等(柏)
8月	31日(土)	四国ブロック大会(土佐清水)	3月		
9月	7日(金)	東海ブロック大会(高山)			
	13日(金)	関東ブロック大会(沼津)			
	14日(土)～15日(日)	北海道ブロック大会(留萌)			
	27日(金)～28日(土)	近畿ブロック大会(長浜)			

全国大会 会長研修会

■第22回全国大会(大阪大会)

- ・開催地 大阪府守口市・門真市(なみはやドーム)
- ・開催日 平成14年11月8日(金)～9日(土)
- ・主管 大阪商工会議所青年部連合会
- ・参加者 375商工会議所青年部 4,502名

商青連設立20周年の記念大会となった本大会は、「立ち止まるな！そして胸を張れ！YEGs, be ambitious！」のスローガンのもと『なにわ楽あり』を開催地キャッチフレーズに、読売巨人軍終身名誉監督長嶋茂雄氏の記念講演をはじめ、開催地大阪ならではの多種多様な分科会、ビジネス交流プラザ「大阪ビジ楽フェスタ」、YEG全国まちおこし物産展等を実施した。

■第20回全国会長研修会

- ・開催地 千葉県柏市
(柏市民文化会館、ホテルサンガールデン柏、プロシアハイム柏、マリナーズホテル柏土姫殿)
- ・開催日 平成15年2月7日(金)～8日(土)
- ・主管 柏商工会議所青年部
- ・参加者 309商工会議所青年部 1,298名

『奮いおこそう！YOUNG HEART』を開催地キャッチフレーズとして、西川りゅうじん氏をカンファレンス・コーディネーターに、全体会議のほか、各地青年部の会長同士、また会長予定者同士により、青年部活動の課題、これからの青年部の目指す方向性等について意見交換を行った。

■第22回全国大会守口門真大会(守口市)



■第20回全国会長研修会(柏市)





総括的概要

平成14年度において全国商工会議所青年部連合会(商青連)は、「立ち止まるな！そして胸を張れ！YEGs, be ambitious！」をスローガンに、1.研修活動の充実と各地青年部活動の支援、2.YEG連携事業の促進、3.商青連組織運営の強化、4.主催している大会、研修会の決定・指導・助言、5.広報活動と情報収集・発信、6.諸会議、懇談会等の開催、7.提言活動の推進、20周年記念事業の実施と記念誌の作成、を事業計画として掲げ、各種の事業を展開した。14年度事業活動の総括的概要は次のとおりである。

1. 研修活動の充実と各地青年部活動の支援

企業経営者・後継者としての資質向上を目的とする研修事業として、「翔生塾」ならびに「ヤングリーダー研修会」をそれぞれ「心の羅針盤」「知恵の羅針盤」と位置付け実施した。7月に実施した企業後継者研修「翔生塾in比叡山」では、自己研鑽・修練の場として、商売の道を学び企業家としての己を磨くために、少数精鋭の精神修行という形で研修会を実施した。また、「ヤングリーダー研修会」は、今年度商青連が20周年を迎えるにあたりその記念事業の一環として、各地における全国30,000人のための研修会とし、地域のリーダーとなるべき先導者を育成することを目的として、共通テーマ「今一度問う！YEGs, be ambitious！」により第1章から第9章を各地ブロック大会で、11月の全国大会を第10章として講演会を開催した。

また、単会活動の活性化に資するため、各地商工会議所青年部の豊かな郷土づくりへの貢献性の高い事業、青年らしい情熱、行動力の溢れる事業、次代の先見性のある事業等地域経済の活性化への取り組み等を表彰する「YEG大賞」を実施し、11事業所を表彰した。

さらに、昨年度までの特別委員会アントレプレナーズ委員会の活動を総括し発展させた形で今年度新しくコミュニティビジネス委員会を設置、地域における様々な課題を地域の青年部メンバーが中心となってビジネスの手法を用いて解決していくコミュニティビジネスを実践するために、先進事例等について研究し、委員会メンバー自らがNPO法人等コミュニティビジネスを実践する主体となって活動するためのサポートを行った。

2. YEG連携事業の促進

上記「YEG大賞」において、単会事業だけではなく、各地青年部同士の連携事業の表彰も行い、各地青年部への連携促進の啓発を行った。

3. 商青連組織運営の強化

商青連の円滑な運営と各地青年部の交流を促進するため、会員総会(11月・2月)および役員会(7回)、委員会等定例の主要会議を開催したほか、必要に応じて臨時の委員会等を随時開催した。

また、商青連とブロック商工会議所青年部連合会、道府県商工会議所青年部連合会、各青年部とのネットワークを一層充実させ、結束をより強固なものにするよう、ブロック会長会議等において青年部および商青連の活動状況等について説明、意見交換をしたほか、機会を捉えては青年部の設置ならびに商青連への加入を呼びかけるなど、商青連の組織運営に努めた。この結果、14年度に青年部を設置した商工会議所は5ヶ所で、全体で447青年部となり、商青連に新規加入したのは4青年部で、会員は397青年部(特別会員44道府県連合会)となった。

さらに、各ブロック大会にて作成するブロック会員名簿を今年度試験的に共通フォーマットにて作成し、今後の商青連ネットワーク構築の足がかりとしてのデータベースの整備を図った。

4. 主催している大会、研修会の決定・指導・助言

7月から10月にかけて全国9ブロックで開催した青年部ブロック大会において、各ブロック商工会議所青年部連合会との連携とブロック内青年部の交流促進、情報交換、結束の一層の強化等を図った。

また、全国9ブロックで開催されたブロック大会の成果を集大成し、さらなる飛躍の場として、11月に大阪府門真市・守口市等において全国から375青年部、4,502名(過去最高)の参加を得て、「第22回全国大会大阪大会」を開催した。今回の全国大会では、『なにわ楽あり』を開催地キャッチフレーズとして、読売巨人軍終身名誉監督 長嶋茂雄氏の記念講演をはじめ、大阪府内各地での分科会、ビジネス交流プラザ、まちおこし物産展などの事業を展開した。

15年2月には千葉県柏市で309青年部、1,298名(過去最高)の参加者により「第20回全国会長研修会」を開催し



同研修会では、『奮いおこそう！YOUNG HEART』を開催地キャッチフレーズとして、西川りゅうじん氏をカンファレンス・コーディネーターに、全体会議のほか、各地青年部の会長同士、また会長予定者同士により、青年部活動の課題、これからの青年部の目指す方向性等について意見交換を行った。

5. 広報活動と情報収集・発信

青年部活動の浸透を図るとともに、青年部相互の情報交換を深めることを目的に、機関紙「翔生」を年3回（臨時・増刊号含む）発行した。

また、商青連ホームページにおいて、商青連の事業予定や活動状況などの情報提供を充実するとともに、各地青年部ホームページへのリンク、意見交換のための掲示板運営などを実施した。

さらには、日本商工会議所で発行する「会議所ニュース」および「石垣」において、商青連活動および各地青年部活動について積極的にPRするほか、「石垣」の青年部コーナーを増頁し、新コーナー「主張」において正副会長等による思いやメッセージを掲載し、全国の商工会議所関係者への情報発信を行った。

6. 諸会議、懇談会等の開催

商青連の円滑な運営のため、役員間でのメーリングリストでの連絡・情報交換、会議資料等の事前配布やメールによる意見徴集など、合理的かつ有意義な役員会等の開催に努めた。

また、日本商工会議所山口会頭と商青連大協会長との対談を実施し、大協会長から青年部の活動状況や今後の動向、日商への要望等を説明し、山口会頭より商青連ならびに各地青年部の今後の進むべき方向性についてアドバイスをいただいた。

さらには、大協会長が日商常議員会へオブザーバーとして出席、昨年度に引き続き古泉直前会長が日商教育問題小委員会へ委員として参加、そして今年度鈴木副会長が中小企業政策小委員会委員に就任し、商青連および各地青年部を代表し意見を述べるなど、日商諸活動への積極的な参画を図った。

7. 提言活動の推進

上記、日商山口会頭との対談の際に、商青連として、日商諸事業への参画や日商からの各地商工会議所への青年部設置の促進等について要望した。

また、全国の商工会議所で取り組んできた「外形標準課税導入反対署名活動」へも商青連として積極的に取り組み、各地青年部による全国的な署名活動を展開し、45,000名強の署名数を集めるとともに、第37回通常会員総会において、外形標準課税導入絶対反対を決議し、各方面へ積極的に働きかけた。

8. 20周年記念事業の実施と記念誌の作成

商青連発足20周年を記念して、これまでの商青連の歩みを総括する「商青連20周年記念誌～立ち上がれ！そして胸を張れ！～」を作成し、全国の商工会議所へ配布した。

また、関連事業として、全国9ブロック大会ならびに全国大会での講演会等を20周年記念ヤングリーダー研修会と位置づけ、九州ブロックの第1章を皮切りに全国大会の第10章までの研修会を実施し、その講演をまとめた記録物（DVDおよびビデオ）を作成し、各道府県商工会議所青年部連合会へ配布した。

9. 商青連中長期ビジョンの策定

全国の青年部会長へ実施したアンケートを基に、20周年記念事業委員会を中心とした商青連役員による、今後の商青連のあり方、進むべき方向性等について示した「商青連中長期ビジョン」を策定した。

平成14年度 第2回YEG大賞

最優秀賞	中国	岡山	新見	新商品開発事業「新見いのししラーメン」「高尾和紙の灯り」
大協会長賞	九州	宮崎	高鍋	舞鶴城 灯籠まつり
大協会長賞	近畿	奈良	奈良	朱雀冬の陣「集え商人、不況をぶっとばせ！」



"YEGが創る美しい日本 自分から、自分らしく、皆のために"

日本商工会議所青年部
平成15年度 第21代会長

所 信

鈴木 悌介

新しい世紀への期待虚しく、相変わらず混沌と閉塞を続けるわが国の状況は、あたかもエゴという煤煙が立ち込め、未来への出口が見えないトンネルの中のようなようです。濁った空気を吸いすぎて酸欠状態になった企業そして日本人は、活力を失っています。

「効率」ばかりを追求し、「自分さえよければ」「自分だけ儲かれば」の論理で動く「誰も責任をとらない」組織が生み出した、ありとあらゆる不祥事が噴出している今、我々商売人には「理念」が求められています。

白店、自企業の原点は何か。我が店は、我が社は、何のためにこの商売をしているのか。何を以って世の中の役に立とうとしているのか。自社の存在の意味・価値を自分の言葉できちんと語れることが大切です。

冷静かつ、慎重な顧客を前にして、自分の店、会社はどう顧客の役に立てるのかを問われています。その答えを自分の言葉で明快に語れないということは、結局「自分の店、会社の強み」が分っていない、「自社、自店は何を以ってして顧客のために役に立てるのか、社会に貢献しようとしているのか」を持っていないということになりはしないでしょうか？

自分の商売の本質的な役割は何か、もう一度自分の商売を定義し直して見る必要があるではないでしょうか？
商売上の様々な意思決定の場面で必ず語るべき「物差し」、つまり、自社の行動規範としての理念をそれぞれの企業が今一度確認すべき時だと考えます。

この時代の大転換期に、「変わらなければ」とよく言われます。変わるとは何か？ ただ闇雲に過去を否定し、古いものを捨て去るということではないはず。それは「視点を交える、視野を広げる、新しい行動パターンに挑戦する」ことだと考えます。異なる視点で、より広い視野からものを見れば、今まで見ていなかったものが見えてくる。新しい行動パターンをとる、つまり、既成概念に囚われず、やり方を工夫すれば、思いきってチャレンジしてみれば、今まで出来なかったことが出来るようになる。

YEGはそんな学びと気づきの場でありたいと思います。

時代の本質を察知し、その時代の要請を一旦素直に受け入れる。だが、鵜呑みにはしない。演出のための演出にはごまかされない。本質は何かを見極める目を養い、自分で考え判断する。そして昇華させ、新しい文化を創る。まさに温故知新。日本人が大切にしてきた知恵です。

守るべきものは頑固に守る。変えるべきものは勇気をもって変える。

そんな気骨ある仲間が創るYEGでありたいと思います。

情報を求め、友を求め、また、心の支えを求めて集まった全国3万人の素晴らしい仲間とともに、自由闊達に語り、真剣に学び、笑顔で行動し、YEGとしての基盤である自分の商売の生成発展を実現しようではありませんか。

そして、そこで忘れてならないことは、「それは、同時にあなたの隣のYEGの仲間にとっても同じように重要なことだ」ということです。「自分だけよければ」ではなく、「自分も相手も」です。

YEGとはそんな暖かい仲間の集まりでありたいと思います。

元気な会社、明るい店の集まりが、活気ある地域を創り、そして世界のリーダーたるべき国、日本を創るのです。自らの個性を大切に、自らに誇りを持って初めて、国際社会の中で尊敬される日本になれるのだと思います。

日本商工会議所の青年部としての自覚を持ち、「健康な日本」の創造の一翼を担い、気品と思いやりの溢れる美しい日本を共に創って参りましょう。

夢のない時代だと言われます。私たちの次世代に夢を持たせるのは私たちの責任であります。夢を捨てず、あきらめず、一步一步。

「自分から、自分らしく、皆のために…。」

(平成15年度公式HPより抜粋)

平成15年度 事業年表

月	日	内容(開催地)	月	日	内容(開催地)
4月	18日(金)～19日(土)	第144回役員会等(小田原)	9月	26日(金)～27日(土)	東北ブロック大会(気仙沼)
	25日(金)	九州ブロック会長会議(高鍋)	10月	3日(金)～4日(土)	中国ブロック大会(下関)
5月	9日(金)	四国ブロック会長会議(鳴門)		11日(土)～12日(日)	九州ブロック大会(高鍋)
	16日(金)	東北ブロック会長会議(福島)		16日(木)～17日(金)	東海ブロック大会(松坂)
	17日(土)	北海道ブロック会長会議(留萌)		22日(水)～23日(木)	第147回役員会等(東京)
	21日(水)～22日(木)	第145回役員会等(米子)	11月	7日(金)	第148回役員会等(東京)
	31日(土)	関東ブロック会長会議(上尾)		7日(金)～8日(土)	第23回全国大会米子大会(米子)
6月	4日(水)	北陸信越ブロック会長会議(松任)	12月	3日(木)～4日(金)	第149回役員会等
	5日(木)	中国ブロック会長会議(下関)			第2回役員予定者会議(東京)
	13日(金)	東海ブロック会長会議(東海)	1月	16日～17日	第3回役員予定者会議(浜松)
	14日(金)	近畿ブロック会長会議(吹田)			第150回役員会等
	23日(水)～24日(木)	第146回役員会等(東京)	2月	13日(金)	第4回役員予定者会議(福井)
	29日(金)～30日(土)	近畿ブロック大会(加古川)		13日(金)～14日(土)	第21回全国会長研修会
7月	11日(木)～12日(金)	四国ブロック大会(鳴門)			第40回会員総会(福井)
8月	13日(土)～14日(日)	関東ブロック大会(館林)	3月		
9月	18日(木)～19日(金)	北陸信越ブロック大会(松任)			
	20日(土)～21日(日)	北海道ブロック大会(北見)			

全国大会 会長研修会

第23回全国大会(米子大会)

- ・開催地 鳥取県米子市(米子市民ホール、米子コンベンションセンター)
- ・開催日 平成15年11月6日(木)～8日(土)
- ・主管 鳥取商工会議所青年部連合会
- ・参加者 350商工会議所青年部 3,018名

『奮いおこそう！YOUNG HEART』を開催地キャッチフレーズとして、西川りゅうじん氏をカンファレンス・コーディネーターに、全体会議のほか、各地青年部の会長同士、また会長予定者同士により、青年部活動の課題、これからの青年部の目指す方向性等について意見交換を行った。

第21回全国会長研修会

- ・開催地 福井県福井市
(福井ワンツホール、フェニックスプラザ、福井商工会議所ビル)
- ・開催日 平成16年2月7日(金)～8日(土)
- ・主管 福井商工会議所青年部
- ・参加者 301商工会議所青年部 1,153名

本会議は鈴木悌介商青連会長、小園浩幸次年度商青連会長予定者による商青連オリエンテーションからスタートし、続く分科会では「ビジネス」「コミュニティ」「まちづくり」に焦点を合わせ、各単会の事例を交えて進行された。

第23回全国大会米子大会(米子市)



第21回全国会長研修会(福井市)





総括的概要

平成15年度において全国商工会議所青年部連合会（商青連）は、<YEGが創る美しい日本 「自分から、自分らしく、皆のために」>をスローガンに、1.各地単会、道県府連、ブロック間ならびに、会員間の交流と連携の促進、2.研修・研鑽を通じての人材育成の促進、3.各地YEG（単会、道県府連、ブロック）活動への支援の強化、4.会員企業へのビジネスチャンスの提供、5.提言活動の推進、6.PR・広報活動の強化、7.組織強化と組織改革、8.日本商工会議所の青年部としての日本商工会議所との連携強化、9.他団体との交流と連携の促進、10.青年経済人としての国際交流の促進、11.次世代の育成とそれに関わる教育問題への取り組み、12.環境問題への取り組みを事業計画として掲げ、各種の事業を展開した。

全国9ブロック（北海道、東北、関東、北陸信越、東海、近畿、中国、四国、九州）で青年部ブロック大会を開催するとともに、「第23回全国大会」を11月に米子市で開催し、約3,000名が参加した。さらに、16年2月には、福井市で約1,150名の参加を得て「第21回全国会長研修会」を開催し、各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。

初めての試みとして、商青連加盟青年部会員に新しいビジネスモデルの構築、現業の見直しの機会を提供することを目的とした「YEGビジネスプランコンテスト」を実施した。同コンテスト実施に先立ち、よりよいビジネスプランを生み出すため8月に「若手後継者向け創業塾（ビジネスプラン作成研修会）」を実施した。コンテストは、12月の一次審査、1月の二次審査を経て16年2月の第21回全国会長研修会にて美唄商工会議所青年部・永桶氏と宮津商工会議所青年部・大村氏による共同プランがグランプリにあたる中小企業庁長官賞を受賞、表彰された。

各地青年部の支援策の一環として各地青年部が展開する事業を対象に「第3回YEG大賞」を実施し、竹原商工会議所青年部の「楽市楽座プロジェクト」がYEG大賞グランプリを受賞した。応募された全事業の情報についてはWEB上でのデータベース化を図り、情報の共有化に努めた。

また、商工会議所青年部会員間のネットワークを活かしたビジネスチャンスを創出するため、WEBのビジネス交流サイトである「ご縁満開YEGビジネスサイト」（<https://at.yeg.jp/business/Main.do>）を開設した。さらに同サイトの機能を補完するため全国ビジネス交流会を9月・1月の2回実施した。

並行して、青年部会員間の連絡、意思決定を円滑に行うためWEB上の青年部向けグループウェアであるエンジェル・タッチ（以下、AT）の本格的な運用を開始し、役員会の協議、審議に活用するとともに、10月にはテスト版WEB会員総会を実施した。次段階では、円滑で迅速な意思決定を行うため、ATを活用したWEB版会員総会の導入を目指している。

会員への迅速かつタイムリーな情報提供のために、月2回のホームページの更新に加えて、会員向けメールマガジン（毎月1日・15日）の配信を開始するとともに、web版翔生を発行した。また、YEGブランドの認知度を向上させるために外部への情報発信にも努めた。

コミュニティビジネスの啓蒙・育成のために「商青連全国コミュニティビジネス協議会」を発足した。

また、日本商工会議所（日商）との連携・協力の一環として日商各小委員会へ積極的に出向し、意見具中を行った。なお、会員の増強と拡大にも努力し、16年3月末現在の青年部設置数は449カ所、うち商青連加入は401カ所（加入率89.3%）となっている。



平成15年度
第3回YEG大賞

グランプリ	中国	広島	竹原	楽市楽座プロジェクト
大賞	北海道	北海道	帯広	おびひろ氷まつり
大賞	東北	山形	米沢	第2回上杉鷹山公生誕祭（杜の楽宴）
大賞	四国	徳島	鳴門	“鳴門YEG企画番組” ワイワイYEG ～街を語ろう～
大賞	東海	三重	鈴鹿	出会いふれあいフェア2003「バイクであいたいパレード」
会長特別賞	中国	岡山	岡山	岡山商工会議所青年部 長期ビジョン策定及び実施

平成15年度
第1回YEGビジネスプランコンテスト

中小企業庁長官賞	美唄YEG	永桶 裕明	木質廃材活用による新エネルギービジネスプラン
	宮津YEG	大村 利和	
日商會頭賞	福井YEG	山岸 寛士	サービス業会の接客・技術を抜本的に改善するコールセンター機能付きAPSシステム販売事業
コミュニティビジネス賞	足利YEG	笠原 健一	県産小麦の消費拡大を目指した小麦粉加工販売業者のビジネスネットワーク
YEGネットワーク賞	深谷YEG	松本 清	町単位で地域一体型の障害者雇用促進のための人材育成等
	平塚YEG	城所 孝	免許制度撤廃時の酒類販売店生き残り戦略
志よし賞	帯広YEG	後藤 健市	インターネットと場所通貨(地域)通貨を活用した地域経済活性化に寄与する新しい電報サービス事業
ロマン賞	松江YEG	石橋 広光	「コミュニティ・ワイナリー(体験・参画・交流型ワイナリー)」の創造プロジェクト
審査員特別賞	福島YEG	阿部 幹郎	森林整備で捨てられてしまう木を用い、子供たちの創造性を生かした木工教室を開催
	福井YEG	林 洋三	入居者の火災から建物を守る簡単保険
	岡山YEG	山本 守	原価で建てられる・住宅建築の完全分離発注ツール

解 説

YEGビジネスプランコンテストの表彰及び発表は平成16年2月14日福井商工会議所コンベンションホールで全国会長研修会ふくい会議のYEG総括（参加者約750名）の中で華々しく行われた。副賞として賞金総額500万円という破格の賞金を用意した。

平成15年度商青連の目玉事業の一つであるこのコンテストはYEGとして初めての取り組みで、平成15年12月25日(木)に第1次審査、平成16年1月8日(木)に第2次審査を行い各賞が決定していた。表彰式に続き中小企業庁長官賞、日本商工会議所会頭賞、コミュニティビジネス賞はプレゼンテーションタイムを設けプランを熱く語った。特にグランプリの永桶さんの店頭公開への強い意志が参加者に強い感動を与えた。平成16年度も引き続きこの事業を継続することが会員総会で決定している。このコンテストが新規ビジネスや店頭公開企業の登竜門に成長してくれればと強く思う。



"美しい日本の創造！ 思いやり、情熱の心で結ぶYEG"

日本商工会議所青年部
平成16年度 第22代会長

所 信

小 園 浩 幸

日本経済はマクロ的に見れば良い方向に向かっています。しかし、非製造業、中小企業、地域産業などにはまだ明るさが見えず、雇用環境も厳しい状態が続いています。特に、中小零細企業が大多数を占める青年部の会員企業にとっては、未曾有の経済的苦境の中にあります。それは社会にも反映し、事件は低年齢化、無差別化、凶暴化し、家族や地域社会が崩壊寸前までに追い込まれているように思われます。

このような状況を見ますと、心よりモノを、目的より手段を、過程より効率を優先するあまり、本来、人として持っていた優しさや思いやり、そして情熱の心、さらには心のゆとりが全ての面において忘れ去られているように思えます。私はこの人の心の有り様を大切にして、「愛する郷土、そして美しい日本」を創るために、私たちYEGに何ができるか、何をすべきかを共に追い求めて行きたいと思います。

その為には、「経済とは経世済民。ビジネスとは皆を幸せにする手段である。」という「商いの本質」を見据え直すと共に、YEGという私たちに与えられた「知恵と人の大きな輪」を共有し、「商いの本質」を形にするためにその輪を活かしてまいりたいと思います。YEGの組織力と人脈を活かし、皆様のYEG活動に、また、ご商売を活かしていただけるような活動を展開してまいります。

また自社の経営の発展及び地域の活性化に責任を負うべき私たちYEGは、さらに大胆に「変わる」ことが求められています。YEG活動は新しい自分に出会えるチャンスであるということです。

地域の元気、そしてこの国の元気に責任ある私たちYEGであります。まさに「YEGとして夢に挑み、地域を愛し、連帯の証となる」の心意気です。

そして平成14年度全国大会を大成功に収め、志半ばで他界されました、故森田展且氏の遺志、「夢を追い続けること、そうすれば叶う」という気持は、いつまでも大切にしていきたいと考えております。

日本商工会議所をはじめ、各地商工会議所並びに商青連役員、そして各地青年部会員の皆様のより一層のご発展をお祈りいたしますとともに、私自身、皆様のご支援を頼りに、平成16年度精一杯頑張る所存でございますので、私どもに対しましてより一層のご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます、所信に代えさせていただきます。

(平成16年度公式HPより抜粋)

平成16年度 事業年表

月	日	内容(開催地)	月	日	内容(開催地)
4月	16日(土)	第151回役員会(帯広)	9月	17日(金)	関東ブロック大会(上尾)
	23日(金)	九州ブロック会長会議(佐世保)		18日(土)	北海道ブロック大会(歌志内)
5月	8日(土)	東北ブロック会長会議(気仙沼)		6日(水)～7日(木)	北陸信越ブロック大会(氷見)
	15日(土)	四国ブロック会長会議(観音寺)	10月	9日(木)～10日(日)	九州ブロック大会(北松)
	21日(金)	東海ブロック会長会議(恵那)		14日(木)	第154回役員会(東京)
	24日(月)	北海道ブロック会長会議(帯広)	11月	4日(木)～7日(日)	第24回全国大会北海道・帯広大会(帯広)
	25日(火)	第152回役員会(帯広)		5日(木)	第155回役員会(帯広)
	29日(土)	関東ブロック会長会議(上尾)		5日(木)	第41回会員総会(帯広)
6月	3日(木)	北陸信越ブロック会長会議(氷見)	12月	2日(木)	第156回役員会(東京)
	4日(金)	近畿ブロック会長会議(敦賀)	1月		
	19日(土)	中国ブロック会長会議(平田)	2月	18日(金)～19日(土)	第22回全国会長研修会(岡山)
7月	8日(金)	第153回役員会(東京)		18日(金)	第157回役員会(岡山)
	23日(金)～24日(土)	東海ブロック大会(東海)		19日(土)	第42回会員総会(岡山)
8月	20日(金)～21日(土)	東北ブロック大会(大船渡)	3月	12日(土)	第158回役員会(長浜)
	28日(土)	近畿ブロック大会(吹田)			
	4日(土)～5日(日)	四国ブロック大会(観音寺)			
9月	11日(土)	中国ブロック大会(平田)			

全国大会 会長研修会

■第23回全国大会(帯広大会)

- ・開催地 北海道帯広市
(帯広市民文化ホール、とちちプラザ、アグリアリーナ)
- ・開催日 平成16年11月4日(木)～6日(土)
- ・主管 北海道商工会議所青年部連合会
- ・参加者 3,200名

本大会は、「美しい日本の創造!思いやり、情熱の心で結ぶ YEG」のローガンのもと『蝦夷は、なまらええ～ぞ～』を開催地キャッチフレーズに、倉本聡氏の記念講演をはじめ、「五感に響く北大地」をコンセプトにした「いまだかつてない分科会」、ビジネス交流パーク、ふるさと自慢・味自慢物産展等を実施した。

■第22回全国会長研修会

- ・開催地 岡山県岡山市
(ママカリフォーラム、ラヴィール岡山、ホテルグランヴィア岡山)
- ・開催日 平成17年2月18日(金)～19日(土)
- ・主管 岡山商工会議所青年部
- ・参加者 330商工会議所青年部 1,163名

本会議は、全国3万人のネットワークを共有する事の価値を感じ、全国会長研修会の本質を踏まえ、集う参加者の意思と満足を実感できる研修会を目指し開催された。「志という名の翼をひろげて」というテーマで福武総一郎氏による基調講演が行われた後、各テーマによる分科会、交流会を実施した。

■第24回全国大会北海道・帯広大会(帯広市)



■第22回全国会長研修会(岡山市)





総括的概要

平成16年度において全国商工会議所青年部連合会（商青連）は、＜美しい日本の創造！ 思いやり、情熱の心で結ぶYEG＞をスローガンに、商青連の役割とは何かを今一度熟慮し、以下の3テーマを中心に活動を展開した。

第1のテーマは、各地YEGの活動支援である。各地YEGの活動がより活性化し、それぞれの会員にとって成果を生むように、サポーターとして、パートナーとして、時にはメンター（助言者）としての支援に基づいた事業を展開した。

第2のテーマは、会員メンバー企業3万社へのビジネスチャンスの提供である。YEGの本質は自社の発展とそれを通じての社会貢献である。全国3万人のネットワークを最大限に活かしたビジネス支援事業を展開した。

第3のテーマは、組織力の強化と組織の改善である。全国組織としての潜在力、外部への発信力・影響力を持った力強い組織を目指し、未設置商工会議所への加入促進、また商青連未加入単会の加入促進に継続的に取り組んでいる。具体的な活動としては、より多くの会員が参画しやすく、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化につながるよう見直しを行いつつ、全国9ブロックでブロック大会を開催するとともに、11月に帯広市で、約3,200名の参加を得て「第24回全国大会」を開催した。さらに、17年2月には、岡山市で約1,200名の参加を得て「第22回全国会長研修会」を開催し、各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。

各地青年部の支援策の一環として、各地青年部が展開する事業を対象に「第4回YEG大賞」を実施し、応募総数109の事業の中から、大分YEGの「府内戦紙（ふないぱっちゃん）」をYEG大賞・グランプリに選定した。また当事業を通じて全国3万人のメンバーが、各単会の事業、コミュニティビジネスの事例、講演会・講師データ、各単会に関する情報を共有し利用できるYEGの総合データベースシステムを構築した。

会員個々の支援策では、日商が推進している「第二創業コース」の一つとして、「YEGヤングリーダー研修会」を開催した。これをうけて、新しいビジネスプランの発掘、起業化・事業化の促進、地域経済のオピニオンリーダー企業の育成を目的に「YEGビジネスプランコンテスト」を実施し、グランプリにあたる中小企業庁長官賞に各務原YEG・池戸氏を選定した。

また、15年度開設したWEB上のビジネス交流サイト「ご縁満開YEGビジネスサイト」については、実際の取引機能をプラスし、更なるコンテンツの充実を図ると同時に、利用促進のための広報啓発活動を行った。これにより登録企業数は約800社、アクセス数は月に約10,000件となり、本サイトを通じてのビジネスの成約事例も徐々に増えてきている。さらに、サイト上での交流を補完するため、8月、12月にビジネス交流会を開催した。これを契機として、県連あるいは単会レベルでのビジネス交流会が全国約50カ所で開催されるなど自発的な動きも目立ってきている。

商青連内の情報流通の改善、外部への情報発信と「YEG」ブランドの認知促進のため、15年度より継続して取り組んできたIT情報化戦略については、会長の思い、商青連の活動報告、日商からのお知らせなどをタイムリーに発信・更新しているホームページとメルマガの利用促進に加え、エンジェルタッチ（AT）の利用促進を行い、全国・ブロック・道府県連・単会といったグループ単位での双方向コミュニケーションを可能にし、これによりスケジュールの管理や文書等の共有化が可能になった。



平成16年度 第4回YEG大賞

グランプリ	九州	大分	大分	府内戦紙（ふないばっちゃん）
大賞	東北	福島	福島	雪うさぎ弁当コンテスト
大賞	関東	埼玉	所沢	CLUB-SEE オリジナルエコバック関連事業
大賞	北陸信越	富山	魚津	魚津商工会議所青年部創立30周年記念事業 日韓交流促進事業
大賞	中国	島根	平田	平成16年度木綿街道イベント
会長特別賞	東海	三重	伊勢	帯広・伊勢姉妹YEG連携事業「Oiyみそプロジェクト」
特別審査員賞	四国	愛媛	大洲	えひめYOSAKOI祭り「伊予さ来い！」
敢闘賞	北海道	北海道	登別	2004鬼まつり
敢闘賞	関東	茨城	ひたちなか	AJIGAURA BIG WAVE 2004
敢闘賞	東海	愛知	豊橋	第9回炎の祭典～昼の部
敢闘賞	近畿	滋賀	彦根	第5回ハイウェイビジネス交流会
敢闘賞	中国	岡山	総社	吉備線開業100周年記念事業

平成16年度 第2回YEGビジネスプランコンテスト

中小企業庁長官賞	各務原YEG	池戸 一成	弊社開発による使用済み発砲スチロールの減容化とリサイクルの技術による、リサイクル事業とそのビジネスモデルの確立
日本商工会議所会頭賞	広島YEG	北本 慎二	廃棄物処理業者が考える食品循環型リサイクルに向けた農場(養豚)経営
商青連会長賞	福島YEG	廣野 慎一	安心ネットワーク「遠くの親戚より近くのガス屋さん」高齢者世帯の緊急時を遠くの身内に代わって支援するサービスを提供する。
商青連会長賞	福島YEG	大和田 利明	企業再生の鍵は経営計画の作成に尽きる。経営者が重要性に気づき、容易に継続できる計画作成を支援する。
商青連会長賞	諏訪YEG	諏訪TMO	諏訪ブランドギフトカタログサービス、諏訪だからある諏訪のこだわり。
商青連会長賞	三浦YEG	八木 達也	商店会!業者組合!異業種交流会!どんな集まりでも…「事務局」請け負います。
商青連会長賞	中村YEG	国吉 康夫	新化粧品専門店宣言（Site C）
商青連会長賞	佐世保YEG	山内 秀利	ダイオキシン類等の有機塩素化合物の無害化技術開発事業

解 説

この事業は、各地に埋もれているビジネスプランを発掘し、その起業化・事業化を促し、地域経済のオピニオンリーダー企業を育成することを目的としました。従って、本コンテストは単に順位をつけるのではなく、ビジネスプラン作成に始まり、応募から1次選考、2次選考、そして表彰の一連の活動を通し、本コンテストにチャレンジされた応募者が様々な角度から自らの経営力・経営センスを磨く場を提供しました。加えて、2次選考を通過した優れたビジネスプランを表彰・発表することにより、応募者のチャレンジ精神高揚を図るとともに、広くそのプランを世に知らしめ、企業提携等のコラボレーションの機会を促し、起業化・事業化の促進の一助としました。

よって、本年度は賞金としてではなく、下記の研修プログラムを通じてビジネスプランの起業化をフォローアップしました。

- ・ 応募に先駆けたビジネスプラン作成研修（YEGヤングリーダー研修会）
 - ・ 応募された全プランへの評点・コメントのフィードバック
 - ・ 1次審査のフィードバックセミナーと個別指導
- ・ 2次審査に向けたプレゼンテーション研修（内容とプレゼンのブラッシュアップ）

"豊かな地域の創造！ YEG Renovation!"

所 信

人に何かをしてもらったときより
人に何かをしてあげて
感謝されたときのほうが 嬉しい
それが誰かのためになるなら
もう少し頑張ってみようと 力が湧いてくる
人の役に立つこと 人のために尽くすこと
それは あなたの心を豊かに変えてくれる
真の喜びは「与える」ことから生まれる

日本商工会議所青年部
平成17年度 第23代会長
荒濱 健太郎

これは、私の心情を言い表した言葉です。改めて心に刻み、各地YEGの視点に立ち、力を合わせ、魅力あるYEGづくりのために役立ちたいと思います。

かつて、YEGを始めとする経済団体が「地域活性化」の名の下に、当たり前のように行政からの多額の補助金をもらい、それを基に各種まちおこしイベントのほとんどを展開していた時代がありました。ある面では、地域づくりに必要な予算を用意された中での、まちづくりが可能な時代でした。

21世紀初頭の日本経済は「失われた10年」を経て、産業構造、金融、流通システムはもちろんのこと物質的価値観に至るまで、様々な分野で大転換を迫られました。

これからは、日本全国各地域が、自ら主体的に、自分たちの力で、将来を見据えた地域創りのために行動を起こし、発展への道を切り開くべきだと思います。まさに、地域に根ざしたYEGの存在の真価が問われようとしています。そんな時代を背景に、商青連会長という重責を全うすべく、私は3つのキーワードを掲げたいと思います。

1. 【豊かな地域の創造】

地域あつての日本。地域を最優先に見つめた商青連活動こそが、時代背景から導き出される唯一の進むべき道だと思います。

全国400単会3万人のメンバーのみならず！様々な出会いの機会を大切にして、夢を語り合い、語り合った夢を実現するべく、切磋琢磨しまちづくりの成功事例やビジネスの最先端情報を全国組織である商青連を活用し、各々の企業と地域経済の発展、豊かな郷土づくりのために邁進しようではありませんか。

さて、全国商工会議所青年部の連合会として設立された商青連の役割は、その会員（単会）と特別会員（道府県連・ブロック）の発展に寄与することです。そして全国連合組織としての特性を活かし、全国YEGメンバーとその企業及び地域経済の発展と豊かで魅力ある郷土づくりに貢献することが目的です。

目的達成のため、各地YEG活動の情報収集と発信、会員交流と連携の機会創出、研修プログラム・システム構築と提供、ビジネスチャンスの拡大に努めます。特に今年度は、事業に参加していただくという発想ではなく会員、特別会員の方々が積極的に利用していただけるよう、事業の価値を高めていきたいと思っています。

また、日本商工会議所の定款に位置付けられた今、日本商工会議所の青年部として、そのメリットを最大限に活用して、日本商工会議所の事業への参画、山口信夫会頭が政府に要望されている「事業承継税制の抜本的な確立」の推進等で連携を強化するとともに、全国YEGの情報を収集・分析・集約して政策提言を行うことも重要な課題だと考えます。

2. 【Renovation】

「リノベーション」という言葉には、既存の構造を活用しながら改良を加え、新たな価値を持たせ共存させていくという意味があります。

本年度、商青連は組織・活動の現状を見つめなおし、変えるべきは改革し、継続すべきはさらに進化を図り、効率的かつYEGとそのメンバーの発展と「豊かな地域の創造」のために、より利用価値の高い組織となるようリノベーションの確実な一歩を踏み出します。同時に、将来に向けて、今後のYEGのあり方、商青連の方向性を検討します。商青連創立20周年の時に作成された中長期ビジョンを検証し、明確な目標を掲げ、それを単年度の枠組みを超えて共有・実践・継続できるよう意識改革を図ることも課せられた大きな命題だと考えます。

3. 【Think Global, Act Local】

国際的な視野で考え、地域で実践することを表現した言葉です。

古来より多くの新しい情報と文化は、海を渡ってやってきました。「21世紀はアジアの時代」と言われるように、急速な発展を続ける中国や東南アジアの経済状況、日本への進出が目覚ましい韓国文化、インドのIT技術の進歩など、

日本に住む私たち青年経済人にとっても、アジア諸国の動向には目が離せません。グローバル化が加速する現在、地域経済もアジア、世界との繋がりがなくては語ることができません。

愛・地球博と同時開催する、第25回全国大会愛知大会を「Think Global, Act Local」実現の機会と捉え、地球規模の情報収集可能なプログラムへの参加、アジア、世界で活躍する若手経営者との交流を通して、地域に根ざしたYEGを、世界へ発信するための基点とするとともに、世界を視野に入れた新たなビジネスチャンスの創造に取り組みましょう。最後に、企業人である我々にとって、何よりも優先すべきは自企業の発展です。本年度の活動が、皆様方お一人お一人のヤングアントレプレナーとしての自分探しに役立つことを願って止みません。

(平成17年度公式HPより抜粋)

平成17年度 事業年表

月	日	内容(開催地)	月	日	内容(開催地)
4月	16日(土)	中国ブロック会長会議(倉吉)	9月	9日(水)~11日(金)	四国ブロック大会(新居浜)
	16日(土)	第159回役員会等(米子)		16日(金)~17日(土)	近畿ブロック大会(敦賀)
	23日(土)	四国ブロック会長会議(新居浜)		22日(木)~24日(土)	東北ブロック大会(能代)
	28日(木)	九州ブロック会長会議(大分)	10月	7日(金)~8日(土)	北海道ブロック大会(石狩)
5月	14日(土)	北海道ブロック会長会議(登別)		13日(木)~15日(土)	東海ブロック大会(恵那)
	21日(土)	北陸信越ブロック会長会議(十日町)		21日(金)~22日(土)	北陸信越ブロック大会(十日町)
	27日(金)	東北ブロック会長会議(大船渡)		22日(土)~23日(日)	九州ブロック大会(大分)
	27日(金)	第160回役員会等(福島)		27日(木)~28日(金)	関東ブロック大会(土浦)
6月	4日(土)	近畿ブロック会長会議(大和高田)	11月	4日(金)~5日(土)	中国ブロック大会(倉吉)
	10日(金)	東海ブロック会長会議(鈴鹿)		11日(金)	第163回役員会等(東京)
	18日(土)	関東ブロック会長会議(土浦)		12日(土)	第44回会員総会(東京)
7月	7日(木)~9日(土)	第25回全国大会(豊田)	12月	2日(金)	第164回役員会等(東京)
		第43回会員総会(豊田)	2月	17日(金)	第165回役員会等(登別)
	8日(金)	第161回役員会等(豊田)		17日(金)~18日(土)	第23回全国会長研修会(登別)
8月	26日(木)	第162回役員会等(東京)		18日(土)	第45回会員総会(登別)

9月

全国大会 会長研修会

■第25回全国大会(愛知大会)

- ・開催地 愛知県豊田市
(名鉄トヨタホテル、豊田スタジアム、瀬戸蔵、愛知万博)
- ・開催日 平成17年7月7日(木)~10日(日)
- ・主管 愛知商工会議所青年部連合会
- ・参加者 5,107名

本大会は、「豊かな地域の創造! YEG Renovation!」のローガンのもと『あなたに逢いたい! 愛、知る 愛知で』を開催地キャッチフレーズにより多くの会員が参画しやすく、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化につながるよう見直しを行いつつ開催された。また、グローバル化が加速する現在、地域経済もアジア・世界との繋がりがなくては語れない。「愛・地球博」と同時開催された本大会を絶好の機会と捉え、荒濱会長とCACCI(アジア商工会議所連合会)若手企業家委員会委員長であるアナ・マリー・ペリケ氏との対談を実現し、その成果を「愛知宣言」として全国に発信した。

■第25回全国大会愛知大会(豊田市)



■第23回全国会長研修会

- ・開催地 北海道登別市
(日本工学院、第一滝本館、登別グランドホテル、登別万世閣、ホテルまほろば)
- ・開催日 平成18年2月17日(金)~18日(土)
- ・主管 登別商工会議所青年部
- ・参加者 321商工会議所青年部 1,167名

『凜として起て、頑として進め』を研修会名に、荒濱健太郎日本YEG会長、國枝恭二次期日本YEG会長、戸田藤男日本YEG顧問をパネリストとしてパネルディスカッションが行われた後、分科会、交流会を実施した。

■第23回全国会長研修会(登別市)





総括的概要

平成17年度において日本商工会議所青年部（日本YEG）は、〈豊かな地域の創造！YEG Renovation!〉をスローガンに、以下の3テーマを中心に活動を展開した。

第1のテーマは、「豊かな地域の創造」である。日本YEGの役割は会員（単会）および特別会員（県連・ブロック）の発展に寄与することであり、目的は全国組織である特性を活かし全国YEGメンバーとその企業および地域経済の発展と豊かで魅力ある郷土づくりに貢献することとして捉え、これらの役割・目的達成のために、各地YEG活動の情報収集と発信、会員交流と連携の機会創出、研修プログラム・システム構築と提供、ビジネスチャンスの拡大に努めた。

第2のテーマは、「Renovation!」である。本年度、日本YEGは組織・活動の現状を見つめなおし、変えるべきは改革し、継続すべきはさらに進化を図り、効率的かつより利用価値の高い組織となるよう、リノベーションの確実な一歩を踏み出した。同時に、創立20周年時に作成された中長期ビジョンを検証し、単年度の枠組みを超えて共有・実践・継続できるよう意識改革を図った。

第3のテーマは、「Think Global, ACT Local」である。グローバル化が加速する現在、地域経済もアジア・世界との繋がりがなくしては語れない。「愛・地球博」と同時開催された「第25回全国大会」を絶好の機会と捉え、荒濱会長とCACCI（アジア商工会議所連合会）若手企業家委員会委員長であるアナ・マリー・ペリケ氏との対談を実現し、その成果を「愛知宣言」として全国に発信した。

具体的な活動としては、より多くの会員が参画しやすく、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化につながるよう見直しを行い、全国9ブロックでブロック大会を開催するとともに、7月に豊田市で「第25回全国大会」を開催し、約5,100名の参加を得た。さらに、18年2月には、北海道登別市で約1,200名の参加を得て「第23回全国会長研修会」を開催し、各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。

各地青年部の支援策の一環として、各地青年部が展開する事業を対象に「第5回YEG大賞」を実施し、応募総数112の事業の中から、岡山YEGの「1,000人が出会う!! Hey! Say! Cafe! (ヘイセイカフェ)」をYEG大賞・グランプリに選定した。また当事業を通じて全国3万人のメンバーが、各単会の事業、コミュニティビジネスの事例、講演会・講師データ、各単会に関する情報を共有し利用できるYEGの総合データベースの充実を図った。

会員個々の支援策では、日商が推進している「第二創業コース」（創業人材育成事業）の一つとして、「YEG第二創業支援プロジェクト」を開催した。新しいビジネスプランの発掘、起業化・事業化の促進、地域経済のオピニオンリーダー企業の育成を目的に実施し、栃木YEG・佐藤正行君、福井YEG・鈴木和男君をグランプリに選定した。

また、15年度開設したWEB上のビジネス交流サイト「ご縁満開YEGビジネスサイト」については、更なるコンテンツの充実を図ると同時に、利用促進のための広報啓発活動を行った。これにより登録企業数は約1,000社となり、本サイトを通じてのビジネスの成約事例も徐々に増えてきている。さらにサイト上での交流を補完するため、全国のYEGメンバーに対し、ビジネス交流会の重要性を広く認識してもらうとともに、ビジネス交流会の開催ノウハウを学習してもらうことを目的とし、11月にビジネス交流会リーダーセミナーを、12月にはビジネス交流会を開催した。

日本YEG内の情報流通の改善、外部への情報発信と「YEG」ブランドの認知促進のため、15年度より継続して取り組んできたIT情報化戦略については、会長の思い、日本YEGの活動報告、日商からのお知らせなどをタイムリーに発信・更新しているホームページとメルマガの利用促進に加え、エンジェルタッチ（AT）の利用促進を行い、全国・ブロック・道府県連・単会といったグループ単位での双方向コミュニケーションを可能にし、これによりスケジュールの管理や文書等の共有化が可能になった。

本会の表記について、「日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会」という表記は2つの団体があるようでわかりづらく、また日本を代表する青年部組織としての意識付けを強くするために「日本商工会議所青年部」に変更した。呼称についても、「商青連」という呼称は関係者以外にはわかりづらく、YEGブランド確立の視点からも「YEG」を使用の方が良いと判断し、「日本YEG」に変更した。

また、今年度取りまとめた「Renovationへの提言」の1つとして、会員総会・全国大会・全国会長研修会のあり方等の根本を検討し、7月に電子会員総会、11月～12月に全国会長研修会・会員総会、2月～3月に全国大会・会員総会を実施する年間事業サイクルを決定し、平成21年度から実施することとした。



平成17年度 第5回YEG大賞

グランプリ	中国	岡山	岡山	1,000人が出会う!! Hey! Say! Cafe!
大賞	東北	福島	福島	吾妻の雪うさぎパン・おむすび・デザート商品化事業
大賞	北陸信越	新潟	新発田	新発田城三階櫓・辰巳櫓復元完成記念城下町しばた全国雑煮合戦
大賞	近畿	滋賀	大津	平成17年度商い体験事業
特別審査員賞	東海	三重	伊勢	伊勢っ子大賞
会長特別賞	北陸信越	長野	諏訪	クイズ携帯からよいてこしょ!
敢闘賞	北海道	北海道	石狩	石狩市電話帳作成事業
敢闘賞	関東	静岡	浜松	「音と技と文化のまち NEW浜松」(浜松市イメージソングコンテスト)
敢闘賞	四国	愛媛	松山	一般市民参加「どななんぞ」連松山(野球拳おどり)
敢闘賞	九州	長崎	大村	グリーンツーリズムおおむら(のだけ・白鳥)
敢闘賞	関東	神奈川	相模原	地域文化発掘事業「てるて姫」
敢闘賞	中国	島根	大田	新生大田市合併イベント「新生大田市合併記念 Let's Go!石見銀山ウォーキング」

平成17年度 第二創業支援プロジェクト(第3回YEGビジネスプランコンテスト)

グランプリ	福井YEG	鈴木 和男	日本の豊かな水資源を守る「深井戸洗浄事業」
グランプリ	栃木YEG	佐藤 正行	もみ殻の醗酵処理による有機肥料製造プラント
準グランプリ	加賀YEG	小谷 由美子	NEWプライダル事業“カーロカーラ”プロジェクト

解 説

第二創業支援プロジェクトには全国より多くのご参加を頂きありがとうございました。1月18日～19日「神奈川県湘南国際研修センター」で開催されました日商主催・創業育成事業(第二創業コース)集合研修にて、第二創業のためのビジネスプランについて、野村総合研究所のコンサルタントによる講師の指導を受け、8名の完成したビジネスプランを1月20日に日本商工会議所にて行いました最終プレゼンテーションにて審査を行いました。

すべてのプランのプレゼンテーションが終わり、7名の審査員の審査に於いて、優秀プラン「3プラン」を決定しましたが、どのプランも素晴らしいプランばかりで甲乙つけがたく最終審査にて決選投票を幾度となく行うほどの白熱した審査会となりました。

結果としては、審査員の協議により本年度はグランプリ2プラン、準グランプリ1プランとすることとなりました。なお、表彰式は平成18年2月18日午前9時から第23回全国会長研修会「北海道のほりべつ会議」の中で、日本工学院アリーナにおいて行われました。



"地域が創る日本の未来 故郷の新しい風YEG"

日本商工会議所青年部
平成18年度 第24代会長

所 信

國 枝 恭 二

日本にはその地域特有の気候風土、歴史や文化によって育まれた多くの街があります。そこでは地域に根ざした企業が事業活動を継続することによって、地域住民に生活と雇用の場を提供しております。企業もまた地域住民によって愛され、育てられる事でよりよい製品・サービスが生まれ、さらに成長を続けます。それは、“地域”というひとつのコミュニティ、運命共同体において脈々と営まれてきた経営システムであり、規模の差こそあれ、行政を含めた地域と企業と住民の持ちつ持たれつの関係があった、かつての日本の地域の原風景であります。

しかしながら今日まで、グローバル経済という名の下に、力のある企業はより安価な労働力を求め生産拠点を海外へ移し、あるいはより大きな市場を求めて世界での販売戦略へとシフトしてきました。そして資産拡大など大きな成果を得ることは出来ましたが、一方では多くの大切な物を無くしてきたのも事実ではないでしょうか。

いま“地域”では、地方分権政策への転換という大きな流れの中、公共投資の減少や消費の低迷などによる経済の縮小、あるいは企業、人口の地域外流出に歯止めがかからず、それに伴う雇用機会の激減、経済環境の悪化、さらには犯罪の増加などの社会的要因とも相俟って、将来に対する不安が増大しています。それらは、子供の出生率などにも影響を及ぼし、それぞれの地域の経営基盤を根底から揺さぶっています。このマイナスの循環は、“地域”というコミュニティそのものの存続を危ういものにするばかりではなく日本の将来にも大きな不安要素となっていると言っても過言ではありません。

しかし、日本経済の根幹を支え、企業を育み、不安のない生活や教育を提供し、将来を担う若者を育てるのも、“地域”というコミュニティの大切な役割であり、地域経済を支える中小企業の役割であると思います。地域が地域としてしっかり経営されてこそ、故郷がある日本こそ、本当に愛すべきこの国の姿であると考えます。

YEGとは、地域問題にしっかりと取り組む商工会議所活動の一翼を担い、YEG会員一人ひとりが自社事業を発展させることで地域経済に貢献し、愛する郷土のために様々な活動をする全国2万6千人、400単会青年部の呼称であります。そして日本YEGとは、その400単会青年部の連合体組織であり、連合会であるがゆえ、地域やそこで頑張る中小企業のため、YEGのために活動が出来ます。

次代への新しい風はYEGから吹きはじめます。私は、全国各地で愛する地域のために活動するYEGのため、「役に立つ日本YEG」を目指して1年間、しっかりと歩んで行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(平成18年度公式HPより抜粋)

平成18年度 事業年表

月	日	内容 (開催地)	月	日	内容 (開催地)
4月	14日	北海道ブロック会長会議 (帯広)	9月	28日～30日	東北ブロック大会 (酒田)
	14日～15日	第167回役員会等 (帯広)		6日～7日	関東ブロック大会 (野田)
	22日	四国ブロック会長会議 (高知)	10月	14日～15日	北海道ブロック大会 (浦河)
	28日	東北ブロック会長会議 (能代)		27日～28日	東海ブロック大会 (鈴鹿)
5月	13日	関東ブロック会長会議 (野田)	11月	9日～12日	第26回全国大会 (大分)
	18日	九州ブロック会長会議 (大川)		9日～12日	第46回会員総会 (大分)
	26日	中国ブロック会長会議 (総社)		9日～12日	第170回役員会等 (大分)
	19日～20日	第168回役員会等 (大分)	12月	30日	第171回役員会等
6月	3日	近畿ブロック会長会議 (亀岡)	1月	1日	第171回役員会等 (東京)
	10日	北陸信越ブロック会長会議 (大町)	2月	26日～27日	平成19年度役員予定者会議 (浜松)
	16日	東海ブロック会長会議 (豊川)		16日～17日	第24回全国会長研修会 (加賀)
7月	13日～14日	第169回役員会等 (東京)			第47回会員総会 (加賀)
	25日～27日	九州ブロック大会 (大川)	3月	16日～17日	第172回役員会等 (加賀)
8月	1日～3日	四国ブロック大会 (高知)		17日	第173回役員会等 (東京)
9月	8日～9日	近畿ブロック大会 (大和高田)			
	12日～13日	北陸信越ブロック大会 (大町)			
	15日～16日	中国ブロック大会 (総社)			

全国大会 会長研修会

■第26回全国大会 (大分大会)

- ・開催地 大分県大分市
(大分商工会議所、大分文化会館、ピクネス、別府ビートルプラザ)
- ・開催日 平成18年11月9日(木)～12日(日)
- ・主管 大分商工会議所青年部連合会
- ・参加者 352商工会議所青年部 3,579名

本大会は、「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」のスローガンのもと『元気な九州！出会いがおおいた！』を開催地キャッチフレーズに、宇野郁夫氏、辻享氏によるディスカッション形式の記念講演をはじめ、各テーマによる分科会、ビジネス交流会、大分うまいもの物産展等を実施した。

■第24回全国会長研修会

- ・開催地 石川県加賀市
(加賀市文化会館、ホテル百万石、瑠璃光)
- ・開催日 平成19年2月15日(木)～17日(土)
- ・主管 加賀商工会議所青年部
- ・参加者 327商工会議所青年部 1,336名

「これでいいの？ YEG 待ったなし！ 地域再生 日本再生地域のリーダーは君だ！」をテーマに、浜松商工会議所会頭 中山正邦氏、内閣官房 参事官補佐 鈴木英敬氏、京都 YEG OB 河合純氏、日本 YEG 副会長 鈴木順三氏をコメンテーターとし、西村晃氏をキャスターとして大討論会を開催。その後、交流会、物産展等を実施した。

■第26回全国大会大分大会 (大分市)



■第24回全国会長研修会 (加賀市)





総括的概要

平成18年度において日本商工会議所青年部（日本YEG）は、＜地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG＞をスローガンに、以下の3テーマを中心に「役に立つ日本YEG」を目指し活動を展開した。

第1のテーマは、「地域支援」である。日本YEGの連合体としての特性を最大限に生かし、全国各地のYEGが関わるまちづくりや祭りの成功事例、ビジネスの最先端情報などを集約し、各地YEGの事業活動のアイデアやヒントなどを提供することで、全国YEGの地域活動への支援を行った。また、YEG改革推進会議を中心に「故郷の新しい風会議」を開催、行政とのパイプ強化を図り、地域活性化のためにYEGが担うべき役割とその具体的な活動について若手公務員等と活発な意見交換を行った。

第2のテーマは、「組織支援」である。日本YEGの働きかけにより、日商から各地商工会議所に対し、1.青年部の設置、2.日本YEGへの加入、3.定款への位置づけ、4.代表者の常議員会出席について、協力を要請するなど、各地商工会議所におけるYEGの位置づけを明確にし、商工会議所の内部組織として地域運営に積極的に関わるYEGの支援を行った。また、日本YEGは第26回全国大会大分大会において「大分宣言」を発信、上記事項をゆるぎなく推進していくことを全国に向けて宣言した。

第3のテーマは、「企業支援」である。企業経営者であるYEG会員の出会いや交流をベースに、それぞれのビジネスにアイデアとチャンスを見いだせる場として「ご縁満開YEGビジネスサイト」を活用、現在登録企業数は約1,100社にものぼっている。また、地域創造・支援特別委員会を中心に、中小・零細企業が抱える問題の中から、1.相続税の非課税、2.第三者個人連帯保証の原則撤廃の2つのテーマに絞り、勉強会、意見交換会を実施、その成果として日商に対し提言書を提出した。

具体的な活動としては、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化を図ることを目的として、全国9ブロックにおいてブロック大会を開催した。また、11月に大分県大分市・別府市で「第26回全国大会大分大会」を開催し、3,579名の参加を得た。さらに、19年2月には、石川県加賀市で1,334名の参加を得て「第24回全国会長研修会いしかわ加賀会議」を開催し、各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。（※3）

今年度で第6回を数えた「YEG大賞」は、応募総数118事業の中から、地域支援部門グランプリには栃木YEG「栃木YEG創立20周年記念事業『巴波川きらきらフィスティバル』」、組織支援部門グランプリには浜松YEG「政策提言『将来を担う子どもたちにとって豊かな郷土「浜松」の創造』と親子体験型学習事業『Hearts, Hands, Kids, はままつ2006』」、企業支援部門グランプリには福島YEG「街なか賑わい創出事業 ふくしま屋台村企画」がそれぞれ選ばれた。本事業のエントリーをYEG事業データベースを活用して行うことにより、さらなる情報の集約・共有が可能となり、各単会における事業企画立案の一助となっている。

会員個々の支援策では、日商が推進している「経営革新塾」（創業人材育成事業）を活用して、「YEGビジネスプランコンテスト」を開催した。新しいビジネスプランの発掘、起業化・事業化の促進、地域経済のオピニオンリーダー企業の育成を目的に実施し、27プランの応募の中から草加YEG・小林和好君をグランプリに選定した。

なお、平成19年3月末現在の青年部設置数は444カ所（設置率85.3%）、うち日本商工会議所青年部加入は400カ所（加入率90.0%）となっている。



平成18年度 第6回YEG大賞

■ グランプリ

地域部門	関東	栃木	栃木	栃木YEG創立20周年記念事業「邑波川きらきらフェスティバル」
組織部門	関東	静岡	浜松	政策提言「将来を担う子供たちにとって豊かな郷土『浜松』の創造 親子体験型学習事業「Hearts, Hands, Kids, はままつ2006」
企業部門	東北	福島	福島	街なか賑わい創出事業 ふくしま屋台村企画

平成18年度 第4回YEGビジネスプランコンテスト

グランプリ	草加YEG	小林 和好	中小零細企業の異業種連携による中国進出～集え！輝け！小さな星たち～
準グランプリ	浜松YEG	杉野 降三	【あんしん】【快適】マンションリフォーム企画（仮称）
準グランプリ	福島YEG	岩下 由加里	古民家風母屋を活用した元気になる・要介護度改善のための介護サービス事業

解 説

27プランの応募のあった第4回ビジネスプランコンテストですが、1次審査の書類選考の5人にあわせて、7人の方が集合研修に参加し、総勢12名が最終選考に向けてブラッシュアップいたしました。

最終審査会で8プランに絞り込むために先に選考された5プランに合わせて、ここで3プランを選考しました。非常に中身の濃いプランとプレゼンテーションの中から8プランを選考することもたいへんな作業でした。

東京の会場に移り最終審査を行いました。約20分の発表に10分の質問時間をとり、審査員からも鋭い質問がありますが、みな堂々と答え集合研修の成果を感じます。すべての発表が終了後すぐ選考会を開き審査員の投票と、その理由からグランプリ、準グランプリを選考しました。

審査員からはプレゼンテーションとして質の高さを述べられていました。中小企業から、また地方からの試みに期待もされておりました。

11月の全国大会大分大会で表彰式とグランプリのプレゼンテーションの発表を予定しています。また集合研修や審査会の模様も全国大会大分大会で詳しくご報告いたします。



提言書

日本商工会議所
会頭 山口 信夫 様

日本商工会議所青年部
会長 國枝 恭二

政府は、2006年11月の月例経済報告で基調判断を下方修正しつつも、2002年2月に始まった今の景気拡大が、1965年から70年まで57ヶ月間続いた「いざなぎ景気」を抜いて、戦後最長になったと判断、報告しました。

しかし、この好景気は、米中の好調な経済や企業の積極的なリストラ策がその背景にあることは明らかであり、実質経済成長率を見ても、いざなぎ景気期間が年平均11.5%だったのに対し、今回の景気では2.4%にとどまるなど、経済の伸びの勢いが極めて鈍く、国民の多くは景気回復を実感するまでには至っていません。くわえて、賃金水準の切り下げや正規雇用からパートや契約社員への置き換えが進んだことで労働配分率は下降線をたどり、多くの国民の暮らしはギリギリのところにあります。政府の月例経済報告が基調判断を下方修正したのも、個人消費関連指標が弱いことに依拠しているものと思われま

す。また、大企業と中小・零細企業、都市と地方、業界別に目を転じて、景気回復は一部の大企業（特に製造業）、そして大都市に偏り、中小・零細企業（特にサービス業）や地方には及んでおらず、社会格差の拡大も指摘されるなど、経済全体の健全な体質改善が進んだとは言えない現状にあります。

今年度、日本商工会議所青年部（以下日本YEG）は、『地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG』をスローガンに掲げ、会長所信では、「日本経済の根幹を支え、企業を育み、不安のない生活や教育を提供し、将来を担う若者を育てるのも、“地域”というコミュニティの大切な役割であり、地域経済を支える中小企業の役割である。地域が地域としてしっかり経営されてこそ、故郷がある日本こそ、本当に愛すべきこの国の姿である」として活動を展開してまいりました。また、このスローガンと所信は、山口会頭から日本YEGに寄せられた「健全な日本の発展は、元気な中小企業によって支えられる」とのメッセージとも合致するものであると確信いたします。

前掲を踏まえ、日本YEGは、地域の声を活動に反映させるべく春のブロック会長会議並びに秋のブロック大会開催に併せ、全国400単位商工会議所青年部会長との意見交換の場を設けました。この中で、多くの中小・零細企業が抱える課題として①中小企業の事業承継（相続）制度②金融の円滑化および信用保証制度一などの改善に向けた実効性ある取り組みを期待する声が多く寄せられました。これを受け、日本YEGでは、学識経験者・国会議員・専門コンサルティング会社・所轄官庁・日商担当部署との勉強会や意見交換会を重ねながら、当該制度に関する調査・研究を進め、以下の提言を提出させていただくに至りました。

つきましては、日本商工会議所におかれましては、当該問題に関する積極的な調査・検討・精査を実践していただき、政府並びに関係機関へ建議・陳情していただきますようお願い致します。

以下、日本YEGとしての提言を記載いたします。

提言1

■相続税の非課税

中小企業（非上場）の後継者が事業を承継する場合、相続した自社株式に対する相続税を、非課税（売却した場合を除く）としていただくようお願いいたします。

国内の中小・零細企業は、企業数で全体の9割以上、雇用では約7割を占め、日本経済の礎であることは言うまでもありません。また、優れた技能・技術を有する中小・零細企業も多く、日本経済が継続的発展を持続するためには、中小・零細企業が健全に発展していくための環境整備が欠くべからざるファクターであると言えます。

そのような視点に立脚するとき、多くの中小・零細企業の存続を圧迫する事業承継制度の見直しは喫緊の課題と言えます。

平成17年10月、中小企業庁は「事業承継協議会」を設立し、中小企業の事業承継円滑化に向けた総合的な検討を行い、平成18年6月には、中小企業の円滑な事業承継のための手引きである「事業承継ガイドライン」を策定・公表されたことは記憶に新しいところです。また、自由民主党経済産業部会中小企業調査会でも中小企業に関する緊急決議のなかで「事業継承を円滑化するために中小企業関係税制の充実・強化を図ること」を決議しました。

日本YEGとしては、こうした国や政界の動きにも呼応しつつ、もう一段踏み込んだ現行制度の改善を強く望む立場から、日本商工会議所が標記の提言を積極的に推進していただくことを提言いたします。

提言2

■第三者個人連帯保証の原則撤廃

中小企業が金融機関から融資を受ける際の「第三者個人連帯保証」の原則撤廃をはじめ、中小企業金融の円滑化および信用補完制度全般の見直しと改善をしていただくようお願いいたします。

安倍首相は、所信表明の中で、内閣の重要課題として総合的な「再チャレンジ支援策」の推進を表明しました。しかし、今の日本

に目を転じると、欧米諸国に比べ挑戦する人に厳しい社会構造になっています。とりわけ、経済分野の諸制度も、「経営に失敗しないことが善で、失敗は悪である」との概念によって組み立てられたものが多く、失敗を経験として評価される欧米とでは大きな開きがあります。

このことを端的に示す制度として不動産担保や保証人に依存した融資制度、とりわけ第三者個人連帯保証があります。現行制度には、債務による自殺者の数が年間で約8,000人、これに支払われる保険金が約2兆円に及ぶなど、広義で悲劇的な社会現象を生む最大の根源といった問題も内包しています。また、一方で「連帯保証制度は金融機関の能力を低下させ、経営監視のインセンティブを弱めるため長期的に倒産・自己破産を招きやすい体質を温存する」（瀬尾佳美青山学院大学助教授）と指摘する声もあります。平成18年度に、中小企業庁から全国の保証協会に対し「第三者連帯保証」の原則撤廃の指示がなされるなど新たな動きも出ていますが、日本YEGとしては、前掲のような悲劇が繰り返されないためにも、土地担保至上主義とならぶ日本の金融の害悪ともいえる第三者個人保証を原則撤廃し、その上で、中小企業金融の円滑化に支障が出ず、かつ再チャレンジ・やり直してできる文化を醸成できるような新たな中小企業金融の信用補完制度制定・システム構築に向けて、日本商工会議所が関係機関と調査・精査・検討し、国・行政等に提言・提案していただくよう強く要望するものであります。

平成19年11月15日

要 望 書

日本商工会議所
会 頭 岡 村 正 様

日本商工会議所青年部
会 長 原 田 隆 司

口頃は日本商工会議所青年部（以下、日本YEG）の活動に対し温かいご指導、ご鞭撻を賜り心より御礼申し上げます。さて、昨年度、日本YEGでは全国の会員企業から経営環境に関する意見・要望を募り、それを調査研究の上、添付の「提言書」の形にまとめて提出いたしました。今年度においても「We Can Do It .今行動！」全ては愛する地域のために"をスローガンに、昨年度に引き続き会員企業の経営環境の改善に取り組んでおり、ここに平成19年度日本YEG役員会の総意として、昨年度と同様に下記について要望いたします。

つきましては、日本商工会議所におかれましては、これまでに引き続き当該問題に関する積極的な調査・検討・精査を実践していただき、実現に向けて、政府並びに関係機関へ建議・陳情していただきますよう要望いたします。

記

一、事業承継の際の相続税の非課税化について

中小企業（非上場）の後継者が事業を承継する場合、相続した自社株式に対する相続税を、非課税（売却した場合を除く）としていただくようお願いいたします。

二、第三者個人連帯保証の原則撤廃等について

中小企業が金融機関から融資を受ける際の「第三者個人連帯保証」の原則撤廃をはじめ、中小企業金融の円滑化および信用補完制度全般の見直しと改善をしていただくようお願いいたします。

以上

平成19年12月 8日

日本商工会議所青年部
会 長 原 田 隆 司

「地方幹線道路等の早期整備に関する提言」

道路特定財源問題に関しては、政府・与党が昨年（平成18年12月）にまとめた「道路特定財源の見直しに関する具体策」において、「真に必要な道路整備は計画的に進めることとし、平成19年中に今後の道路整備の姿を示した中期的な計画を作成する」とする一方で、「現行の税率水準を維持する」ことおよび「一般財源化を前提」として、「毎年度の予算で道路整備に充てることを義務づけている現在の仕組みはこれを改める」、「毎年度の予算において、道路歳出を上回る税収は一般財源とする」ことなどが示されておりました。

道路は、社会、経済、生活を支える基本的なインフラであり、全国の交通ネットワークの整備は、物流、移動の効率化を進め、わが国の産業、経済の安定・発展ならびに災害緊急時への対応等に大きく貢献するものであります。地方においては、幹線道路網が地域の安定および振興に不可欠であるばかりでなく、災害時の救援あるいは医療施設へのアクセスとして住民の生命に直結する場合があります。都市圏においては慢性的な渋滞解消等のための環状道路の整備、鉄道との立体交差の整備、道路の老朽化対策等が必要とされております。また、昭和40年代以降、道路整備が促進されてきたとは言え、地域間を結ぶ幹線となるべき高規格幹線道路等は、なお計画の少なからぬ部分が未開通のままで残されており、道路整備を望む声は根強いものがあります。

勿論、無駄な道路計画の縮減や厳正なコスト管理等を行わなければならないことは言うまでもありませんが、特に幹線道路は連結してこそネットワークとして大きな機能が発揮されるのであり、その場合、当該地域のみならず、広く国全般にわたってのインフラ機能が効果的に発揮されることとなります。したがって、特に高規格幹線道路の計画区間については、可及的速やかに整備すべきです。

地域の努力不足や競争によって格差が生じることはやむを得ないとしても、せっかく潜在的な力も意欲も有しているにもかかわらず、道路が未整備であるためにそれが発揮できないとすれば、公平な公共投資配分とは言えず、地域間格差の是正に配慮すべき国の責任を全うしていないこととなり、国にとっても大きな損失となります。

道路は、そもそも公共財であり、その整備には一般の税財源を当てることが原則であるところ、特に早急な整備が必要なために、例外的に受益者負担主義を採用して特定財源に頼った経緯を忘れてはなりません。

本来、予算のシーリングがなければ余剰は発生しませんが、シーリングによる歳出の制限により余剰が発生するのであれば一般財源化することなく、特定財源はまずは真に必要な道路の整備に前倒しをしてでも充当するのが筋であります。

よって今後の政策運営に当たり、次の事項を強く提言いたします。

提言：真に必要な道路高規格幹線道路の計画区間

14,000kmの早期整備を最優先されたい

地域間格差の是正、地域活性化、わが国全体の成長力の強化のためには、道路は必要不可欠な社会インフラであり、特に結節されてはじめて機能を発揮する高規格幹線道路（14,000km）の整備を最優先していただきたい。また、真に必要な道路が未だ全国各地で整備されないまま多く残されていることから、道路整備を目的に集めた特定財源は、制度の趣旨に則り、暫定税率を維持したうえで、一般財源化することなく道路整備を進めていただきたい。その際には地域格差の是正や地方の自立、高次医療施設へのアクセス強化、渋滞対策などに適切に措置していただくよう強く提言いたします。



愛知宣言

平成17年 7月 8日

私たち、日本商工会議所青年部(YEG)会員ならびにアジア・大洋州の若手経済人は、国際博覧会「愛・地球博」と同時開催された第25回全国大会愛知大会での議論を通じ、それぞれの地域での企業家精神の発揚により地域の経済的な発展を通して社会に貢献していくことが自らに課せられた共通の役割であることを確認した。

さらに、この機会を促え、今後、YEGはお互いの地域の経済的発展に寄与することを目的に、アジア・大洋州各地のYEG的な組織あるいは活動との連携と協力の可能性を求めて、その一歩を踏み出すこととする。

We members of the Young Entrepreneurs Groups (YEG) of Chambers of Commerce and Industry in Japan and the youngentrepreneurs from the Asia-Pacific region, declare during the 25th National Annual Conference in Aichi, jointly held with the World Expo, that it shall be our role to contribute to our respective local communities by focusing on developing businesses through unleashing the capacity of entrepreneurship at the local level.

Furthermore, for the purpose of contributing to the economic development in respective local communities, the YEG shall advocate cooperation and collaboration with the entrepreneurship-focused organizations and movements in the Asia-Pacific region.

大分宣言

平成18年11月11日

我々は、日本商工会議所青年部に所属する400単位会議所定款に青年部が明記・位置づけされること、また各単位会議所常議員会に青年部代表者が常議員会構成員として出席して意見を述べるができるよう、各単位会議所において、それをゆるぎなく推進していくことをここに宣言いたします。

我々商工会議所青年部は、商工会議所の組織基盤を強化し、商工業の改善発展に寄与するために、平成13年5月24日、“商工会議所青年部を会員とする全国商工会議所青年部連合会を置く”として、全国商工会議所女性会連合会とともに日本商工会議所定款に明記され、その組織が日本商工会議所の一部として正式に認証されました。

また、本年9月20日開催の日本商工会議所第554回常議員会・第197回議員総会において、商工会議所の運営基盤の一層の強化と全国商工会議所の連携強化を図る観点から、1.青年部および女性会未設置商工会議所における青年部および女性会の設置。2.日本YEGおよび全商女性連への加入。3.定款への位置づけ。4.代表者の常議員会への出席について、推進することがけつぎされました。

それを受け、我々としても商工会議所活動の重要な役割を担うべく、各単会の定款に青年部を明記・位置づけしていただくと共に、常議員会に青年部会長が出席し、意見を述べるができるよう各単会議所においてお願いしていくことを、我々の運動の中心の一つとします。

いしかわ 加賀宣言

平成19年 2月17日

私たちYEGは、地域再生・日本再生のため自己研鑽に励み、すべてのYEGがそれぞれの地域の特性を活かし、経済効果策を含めた建議・提言を行い、その取り組みを発信していくことを目指す。

「地域が創る日本の未来、故郷の新しいYEG」をスローガンに掲げ、「襪を漕げ！帆をあげろ！時代の風はYEG」を開催地テーマとし、私たちYEGはここ加賀市で第24回全国会長研修会「いしかわ加賀会議」を開催いたしました。

大討論会は、YEGにとどまらず、商工会議所の将来を見据えたうえで、青年部が新たな姿へ進むべき「道標」となる討論会にしていきたいと考え開催いたしました。商工会議所の一員である青年部メンバーは、将来の商工会議所の時代にマッチした組織となるべく改革できるでしょうか。今我々の地域に取り巻く問題に対して果たしてどれだけの商工業者が、商工会議所をイメージするでしょうか。組織の活性化のためには危機感を必要とします。名誉職や行政の下請け組織では、だれも組織の必要性を感じなくなります。そのような危機感をもって全国400単会が、地域に根ざした問題解決の一歩として、声を出して取り組もうという視点から、宣言をいたしました。

全国各地で、YEGの考えを発信し、行動できれば地域格差などの問題は解決できるはずで。各地でその種を育てましょう。その種が生長し始めれば、必ずこの国は、世界において競争力があり国内においては不満の少ない、最も生きがいのある国となるはずで。

だからこそ、商工会議所の取り組みが重要であり、地域のリーダーである我々は切磋琢磨しながら、地域のブランドを活かした活動をしていくべきという提言がなされ、会場の皆様のご賛同を得ました。

その思いを心に刻み、ここに「いしかわ 加賀宣言」を行います。

平成19年度YEG中長期ビジョン提言会議について

平成19年度 日本YEGは設立25周年を迎えました。この年、デフレスパイラルの暗いトンネルを抜け、回復に転じたと言われた日本の景気ですが、現実的には、さらに深刻な未曾有の危機に直面しております。国の借金は800兆円を超え、少子高齢化は、さらに拍車がかかるなか、団塊の世代の退職者が最も多く発生する年であり、私達中小企業を取り巻く環境においても、事業承継税制の問題（平成18年度、日本YEGより日本商工会議所へ提言致しました。）・専門的な技術継承の難しさ、それによって企業活動自体が停滞するなど、山積する問題を抱えております。特に、製造業では、職人的作業や機械化が困難な作業の多い企業の他、各分野に於いても、人口の減少は、リアルな危機感を抱くなか、若者の地方離れはさらに進む一方であります。

その様な時代背景の中、私達YEGは、傍観するだけでなく、私達で出来る事は私達で行動を起そう！という局面にきております。あえて全国26,000名のYEGメンバーに問います。

『私達以外に誰が日本の中小企業を！地域を守るのでしょうか！？』

平成18年度の地域創造・支援特別委員会の報告書、そして各ブロックの会長会議で集約した皆様のご意見を基に本年度YEG中長期ビジョン提言会議において、しっかりと議論を重ね、協議した結果、「商工会議所の一翼を担う私達の責任とは」と言う、キーワードが見えてきました。「交流と連携」がキーワードだった今日まで、全国組織として出向者の間で、親睦が深まり今があります。これからは、先人達が育ててきた「日本YEGと言うスケールメリット」と、「日本商工会議所の下部組織である」と言う私達の立ち位置を再確認し、日本YEGのあるべき姿をしっかりと具体的にして、その責任を自覚し、さらに掘り下げたアクションを起すことが、四半世紀の節目を迎えた私達の使命ではないでしょうか！各地域で、たくましく生業をたてる仲間と共に、各地域のプラスの分子である、『解り易い日本YEG』にするべく、平成19年度YEG中長期ビジョン提言会議は、未来の日本YEGに向けて、ベクトルを定めます。26,000人、400単位YEGのために、日本YEGは進化します！日本YEGは四半世紀を迎えた今、この時代にいる事を自覚し、25年間蓄積した知識と知恵を活用し、次々と押し寄せる荒波を乗り越え、明るい未来へと社会を導いていく役割を担わなければなりません。そのような使命の下、森徹議長を含め総勢19名の熱い志士達が活動を致しました。

25周年を迎えてのYEG中長期ビジョン(一部抜粋)

昭和58年に設立し、平成13年度に日本商工会議所の定款に位置づけられ、平成17年度（18年2月登別の総会にて）日本商工会議所青年部に表記を変更し、商青連から日本YEGと呼称を変更しました。当初は連合会組織として「交流と連携」を活動に掲げ活動してきました。その後、企業家組織という意識を持ち、「会員へのより具体的なビジネスチャンスの提供」を進めてきました。そして、近年は、日本商工会議所下部組織として「組織としての影響力の発揮」の役割を担い「提言」という形で現れています。この活動変化の情報は全国の単位青年部へ浸透させ「解り易い日本YEG」として「交流と連携と提言」を柱に活動していきます。

組織論としてYEGはピラミッド型組織ではなく、宇宙（コスモス）のような共生体組織であると言われております。会員（単位商工会議所青年部）、特別会員（道府県連合会、ブロック連合会）、役員会はコスモス型組織として共生しあいバランスを取って交流と連携を行なっています。しかし、日本商工会議所下部組織として、全国の会員の意見を取りまとめて総意として提言を作成するためには、コスモス型で上下連携のない組織では情報伝達や意思決定が困難です。全国組織のスケールメリットを生かすためには、連携が明確なピラミッド型組織が適切です。道府県連合会、ブロック連合会と日本YEG役員会の組織の見直し「提言できる組織」への改革が必要と考えています。

1. 全国組織の提言団体としての組織改革

全国の中小企業支援に繋がる提言、地域社会の活性化に繋がる提言ができる全国組織への改革が必要。秩序ある大きな連合会として提言団体への組織改革が必要であり、ピラミッド型の組織改革が必要。日本YEG委員会においては、連合会連携・意見吸収と提言提案を行なう常設委員会設置が必要。

2. YEGメンバー間の交流・連携とビジネス支援の充実。

全国大会・ブロック大会の内容も充実し参加率も高くなっている。しかし、参加人数の多さから、参加型イベント傾向が高くなっている。一方、各地域でビジネス交流会の開催が増えてきている。しかし、情報不足のため、地域限定のイベントとなっている。このような地域参加型の情報を集め、全国に発信し、会員間の交流・連携支援が望まれる。

情報化（デジタルネットワーク化）の発達に合わせた、ITツールの充実に望まれる。エンジェルタッチの会員認証を日本YEG提供システムだけでなく、情報公開によって、広いデジタルネットワークで利用できることでYEGメンバーへのビジネス支援に繋がる環境の構築を望む。

3. 道府県出向理事の役割

道府県出向理事は協議及び議決が全国各地の総意としての有効なものとなるよう、各連合会の会長または会長に準ずる者が望ましいが、各連合会会長としての運営、出向理事として地域連携、日本YEGの委員会活動と3つの役目を負うことになる。この役日の負担が高く、多くの道府県連合会では、連合会会長以外が出向している。地域との連携を深めるためにも連合会会長が出向しやすい環境作りが必要である。

4. 委員会運営の見直し

YEG大賞、ビジネスプランコンテスト、IT部門（エンジェルタッチ、ビジネスサイト、YEG事業データベース）、YEG支援団体（ビジネスネットワーク支援室、コミュニティービジネス協議会）連携、提言活動など近年事業が増え、常設委員会で担当分けが困難になっている。時代に合わせた委員会運営の見直しが必要。

従来の「不連続の連続」問題は専門（公募）委員が参加することで、毎年、新人委員だけの運用が回避できるようになった。将来的に公募委員による継続事業運営の可能な委員会運営の検討が必要。また、委員会構成にあわせた単年度事業運営ではなく、事業にあわせた委員会組織運用を行ない、単年度に縛られずに地域のためになる委員会運営の検討を望む。

5. 組織強化と継続的な組織運営の改善

組織強化と同時に、組織のあり方の検討も不可避である。全国、ブロック、道府県の連合会連携の充実による連合会としての組織のあるべき姿が求められている。

- 1) 日本YEG未加入青年部への相互理解
- 2) 青年部未設置会議所の原因追求と促進活動
- 3) 日本YEG支援窓口としてのブロック連合会との連携強化
- 4) 単位青年部窓口としての都道府県連合会組織の連携強化

6. 情報公開ルールの決定

現在の日本YEGでは、情報公開する内容が明確になっていないため、事業内容がわからない、審議内容が総会で発表されても、単会の総意がとれないなどの問題が発生している。

情報公開ルールの決定とITツールを活用した情報公開が必要。

7. 日本商工会議所との連携

日本YEGとしては全国青年部・メンバーから地域や中小企業の問題・意見を吸い上げ、常議員会や小委員会での意見具申や提言書作成することで日本商工会議所活動の一翼を担っていく。

8. 他団体との連携

より広い世界での視野や視点を得るため、また、影響力を行使するために、他団体とのよりいっそうの交流と連携が必要となる。中でも、道州制が検討されている現況では、各種団体との交流・連携は特に求められるであろう。また、組織としての影響力の発揮という観点では、国会議員や官僚とのコミュニケーションも必要である。

9. 国際交流への貢献

CACCI（アジア商工会議所連合会）YEG-AP委員会との連携、世界大会やAPEC（アジア太平洋経済協力会議）等への参加を通じて世界の中の日本という認識を持つことと、併せ、世界のリーダーたる国の若手経済人としてとるべきアクションについて研究・提言をする。

10. 環境問題への貢献

地域のリーダーとして地域に根ざした環境への貢献を果すべき各地YEGへの支援を実践する。

11. 教育問題の研究と提言

地域の次代を創る次世代との関わりを積極的に求め、次世代が経済活動の場で夢を語るような経済の在り様を模索し、実現に努力する

中長期ビジョン提言会議
議長：森 徹（岡山YEG）

国際交流の流れ (New Delhi in INDIA)

日本YEGは、互いの地域の経済的發展に寄与することを目的にアジア・大洋州各地のYEG的な組織あるいは活動との連携と協力の可能性を求めて、その一歩を踏み出してきました。

アジア商工会議所連合会 (CACCI) の総会・理事会への参加を通じて、各国YEG組織との国際交流を進めております。

平成16年度



アジア商工会議所連合会 (CACCI) 第20回総会および第69回理事会 概要報告

1. 会期：2005年2月17日 (木) ~18日 (金)
2. 開催地：ニューデリー (インド)
3. 招致者 (ホスト)：インド商工会議所連合会 (FICCI)
4. 参加国・地域：22カ国・地域 (順不同)

オーストラリア、バングラデシュ、インド、インドネシア、日本、韓国、香港、マレーシア、モンゴル、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、ロシア、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、ベトナム、グルジア、ミャンマー
(欠席：ブルネイ、カンボジア、ニュージーランド)

5. 出席者：約250名 (総会出席者)

日本からの出席 (6名)

- ・商青連 (鈴木直前会長のほか小田原・浜松・豊田商工会議所青年部) 4名
- ・日商事務局 (山田国際部長他) 2名

第20回総会

1) フォーラム

「アジア・太平洋地域の安定的な成長のための戦略」と題してフォーラムが開催され、22カ国から約250名が参加した。

まず開会セッションには、来賓として、インド首相府・Chavan大臣はじめ、FICCI・Kanwar会頭、ICC・Park会長、EURO Chambers・Leitl会頭、CACCI・Koo名誉会長が出席され、第20回総会の開催に祝意が示された。

続いて第1回全体会議では、「アジア・太平洋地域における外国投資と貿易の円滑化」をテーマに、ASEAN・Ong事務総長、世界商工会議所連合会・Mazumdar会長、台湾経済処・Huang外国貿易局長、ロシア商工会議所・Petrov副会頭が出席し、アジア・太平洋地域諸国の経済成長に対する期待とCACCIの連携等についてそれぞれ意見表明がなされた。

2) プレイクアウト・セッション

新たに設置された、a)アジア情報通信技術(ICT)Council、b)アジア化学品Councilの2つの分科会が開催された。

3) その他

理事会・総会と並行して「CACCI Bazaar」と題した展示会が開催され、8カ国から75団体が出展。日商もJETRO、JODC等わが国中小企業支援機関の英文パンフを展示した。

4) 第70回理事会および第21回CACCI総会等場所及び日程

- ・第70回理事会 グルジア：2005年後半
- ・第21回総会 (CACCI創立40周年記念CACCIサミット) 台湾：2006年 (予定)
(40周年記念関連事業：CACCI功労表彰授与式、若手起業家表彰授与式)

第69回理事会

1) 各国経済情勢に関する報告

2004年カンボジアでの第68回理事会に続き、参加各国の経済情勢等について報告。日本からは、強気な2005年政府経済見通しに対し、足元では2004年後半から景気の減速感が台頭し、踊り場状態にある旨報告。

2) 役員人事 (2005~2006年:任期2年)

以下の役員が選出された。

会 長: K. K. モディ (元FICCI会頭:再任)

副会長: ルディー・ベシック (インドネシア商工会議所副会頭:再任)・溝口 道郎 (日商特別顧問:再任)

アブドラ・アワール・ミント (バングラデシュ商工会議所会頭:新任)・デンベレル (モンゴル商工会議所会頭:再任)

3) 事務総長報告 (活動報告)

事前レポートとして提出された2004年のCACCI主要事業を報告、特にCACCIへの加盟や主要事項を協議するため、事務総長会議のような位置付けとしてCACCI Affairs Committeesを設置することが報告された。

また日商が2004年度(2005年1月)に実施した「アジア商工会議所マネジメント研修」に感謝の意が述べられるとともに、加盟各国商工会議所職員の積極的な参加について奨励された。

4) 収支決算報告

原案通り承認された。

5) 会員の異動

会員の入会については原案どおり承認された。(一部は事前に書面承認済み。)

入会: 正会員: (1団体) グルジア商工会議所 (23カ国25商工会議所に組織拡大)

賛助会員: (1団体) ブカラ商工会議所 (ネパール)

終身特別会員: (3団体2個人): ブルネイ・バングラデシュ・ネパールの企業
各1社、パキスタン2個人

特別会員: (1団体) シンガポール1社

6) Local Chamber Award (新規事業)

24正会員傘下の地方商工会議所を表彰する本事業には、7カ国から13の地方商工会議所が推薦された。選考委員会による事前審査によって、3カ国4商工会議所(モンゴル・フズグル、ネパール・ポカラ、フィリピン・ダバオ市およびケソン市)が最終候補としてノミネートされ、選考委員会による面接等の最終審査の結果、以下の2つの商工会議所が優秀賞に選出され、総会懇親会時に表彰された。

優秀賞: ケソン市商工会議所 (フィリピン)

優秀賞: ダバオ市商工会議所 (フィリピン)

7) ワーキンググループ合同会議

ワーキンググループ合同会議において、「貿易円滑化-円滑なビジネス移動-に関する提言」(CACCI Policy Statement on Trade Facilitation- Business Mobility)を取りまとめ、加盟各国政府等に働きかけるよう決議された。

提言では、特に、円滑なビジネス移動は、国際的な貿易・商取引や投資にとって極めて重要な分野であるとし、各国政府においては、単独または共同して、1.国際的なビジネスマンの移動を管轄する法律や規則等を次第に自由化し、2.必要な諸条件の簡素化と透明性の高い情報の作成を進め、3.国境を越えたビジネスマンの移動に関して、円滑な行政措置を講じて国内的な資格と一致させる、こと等を提言している。

8) 若手起業家委員会 (Committee on Youth Entrepreneurship) 会議

今回の理事会において、フィリピンのアナ・ペリケ女史を議長として初めて若手起業家委員会が開催された。なお同議長は、CACCI創設に深く関与されたペリケ元CACCI会長の令嬢。

日本からは、商青連・鈴木直前会長(小田原鈴廣副社長)がゲストスピーカーとして3人の青年部メンバーとともに参加。鈴木直前会長は、日本の商工会議所青年部(YEG)の活動について説明するとともに、2005年3月から開催される愛知万博、ならびに万博に合わせて同7月に開催される「商青連・全国大会愛知大会」への参加PRを行なった。続いて、フィリピン、インドからプレゼンテーションがあり、その後の質疑応答では、a)各国の若手起業家の組織化の状況、b)大学・高校等との連携の模索、c)中小企業への資金・技術支援の重要性、d)若手起業家の育成・支援に関するネットワーク構築等について活発な意見交換が行なわれた。会議後の理事会において、アナ・ペリケ議長から委員会の概要報告があり、商青連・鈴木直前会長の話から多くのことを学んだとの感謝の意が示されるとともに、若手起業家ネットワークの構築に向けて前向きに取り組む姿勢が示された。



国際交流の流れ (Taipei/in TAIWAN)

平成18年度



アジア商工会議所連合会 (CACCI) 設立40周年記念第21回総会 および第71回、第72回理事会 概要報告

1. 会 期：2006年10月31日（火）～11月 2日（木）
2. 開催地：台北（台湾）
3. 招致者（ホスト）：中華民国国際経済合作協会（CIECA）
4. 参加国・地域：22カ国・地域（順不同） ※ミャンマーはオブザーバー参加
オーストラリア、バングラデシュ、ブルネイ、カンボジア、香港、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、ベトナム、ミャンマー（欠席：ロシア、グルジア、ウズベキスタン）
5. 出席者：約300名（総会出席者）
日本からの出席（村田京都商工会議所会頭以下代表団63名）
 - ・京都商工会議所 13名
 - ・東京商工会議所 1名
 - ・日本商工会議所青年部、岡山商工会議所青年部、東海商工会議所青年部 31名
 - ・商工会議所女性会（高松8名、大阪1名）9名
 - ・日商事務局 6名

(1) CACCI設立40周年記念第21回総会

テーマ：「持続可能な発展のための革新」

1) 開会式

K.K.モディCACCI会長、辜濂松CACCI名誉会長から開会の挨拶が述べられ、来賓として参加した陳水扁・台湾総統、及び孫京植・韓国商工会議所会頭が祝辞を寄せた。また、奥田碩・トヨタ自動車相談役の基調講演が行われた。

2) 全体会議

「不確実な時代の中でのビジネスへの挑戦」と題したトピック1、「競争力のための革新」と題したトピック2の2つのセッションが行われた。トピック2には、日本から村田・京都会頭がスピーカーとして出席し、日本が技術革新と品質改良、労使協調で世界で成長してきたこと、競争力を高めて成長を遂げるには変化に対応する適応力が必要であり、アジアの国が連携して発展していく可能性などを指摘した。

3) 同時ワークショップセッション

セッション1「全IPネットワークのための新たな市場機会」、セッション2「日本、韓国、台湾からの投資家誘致」の2つのセッションが同時並行で行われた。日本からは、セッション2に国際協力銀行中小・中堅企業支援室の鏑木伸二室長が日本の投資家および企業の投資決定要因などについて説明をした。

4) 同時セッション

繊維、中小企業開発、観光、化学、若手企業家、女性企業家の6つのセッションが同時に開催された。日本からは日本商工会議所青年部の代表団が若手企業家グループのセッションに参加した。同セッションでは、日商青年部相談役の鈴木悌介氏（小田原箱根）が議長を務め、若手経営者の経験について意見交換を行った。

5) 表彰

第2回地方商工会議所表彰と第1回アジア太平洋若手企業（起業）家表彰、CACCI功労者表彰などが行われた。被表彰者（商工会議所）は次の通り。

- ・第2回地方商工会議所表彰
ボカラ商工会議所（ネパール）会員数200名以上の分野
ウブルハンガイ商工会議所（モンゴル）会員数200名以下の分野
- ・第1回アジア太平洋若手企業（起業）家表彰
モハマド・スレイマン・ルベル氏（ラフェグループ社社長・バングラデシュ）
- ・CACCI歴代会長への功労賞表彰
1996年から2006年の歴代のCACCI会長がその功績をたたえられ、表彰された。その一人として96年から98年まで会長を務めた大西正文・大阪商工会議所元会頭が表彰された。
- ・CACCIゴールド・メダリオン表彰
10回以上CACCIの会議に出席した方を対象に行われ、日本からは溝口道郎口商元特別顧問などが表彰された。

6) その他

ウエルカムディナーに馬英九・台北市長、呂秀蓮・台湾副総統、周錫璋・台北県知事、昼食会に陳瑞隆・台湾経済部長（経済相）、ガラディナーに蘇貞昌・台湾行政院長(首相)、志芳・台湾外交部長(外相)などが出席し、それぞれ祝辞を述べた。

(2) 第71回理事会（10月31日）

村田日商副会頭・京都商工会議所会頭、山田国際部長などが出席

1) 役員人事（2006～2008年：任期2年）

以下の役員が選出された。

- 会 長 張 孝威（ハーベイ・チャン）（新任：台湾）
副会長 村田 純一（口商副会頭・京都商工会議所会頭：再任）・ルディー・ベシク（インドネシア商工会議所：再任）
サンブウ・デンベレル（モンゴル商工会議所会頭：再任）・ナシル・ホサイン（バングラデシュ商工会議所連合会会頭：新任）

2) CACCI基金について

総額10万ドルを集め、中小企業の研修事業や奨学金支援に資する基金を創設することになった。

(3) 第72回理事会（11月2日）

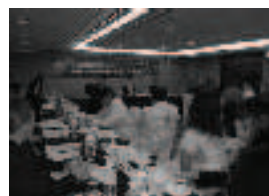
村田日商副会頭・京都商工会議所会頭、鈴木日商青年部相談役、山田国際部長などが出席

1) 次回理事会について

第73回理事会は、2007年7月にパース（オーストラリア）にて開催されることになった。

2) 幹部会議報告について

10月31日に行われた幹部会議において、CACCIが今後10年程度で取り組むべき事業について議論し、企業家育成や、環境対策、展示会の開催など様々な事業案が出された。本事業案は今後実施に向けて検討される。



国際交流の流れ (Perth in AUSTRALIA)



平成19年度

アジア商工会議所連合会 (CACCI) 第73回理事会 概要報告

1. 会期：2007年7月25日(水)～27日(金)
 2. 開催地：オーストラリア (パース)
 3. 招致者(ホスト)：オーストラリア商工会議所連合会 (ACCI)
 4. 参加国・地域：16カ国・地域 (順不同)
日本・オーストラリア・バングラデシュ・香港 (九龍) ・インド・インドネシア・韓国・ニュージーランド・パキスタン・フィリピン・ロシア・シンガポール・スリランカ (スリランカ商工会議所連合会・セイロン商業会議所) ・台湾 (中華民国工商協進会・中華民国国際経済合作協会)
 5. 出席者：約80名
日本からは村田日商特別顧問を始め原田日本YEG会長のほか日本YEGメンバー計25名が参加。
村田副会長 (日本) が理事会の議長を務めた。役員等主な参加者は以下のとおり。
CACCI副会長：村田純一 (日本) ・ルディー・ベシック (インドネシア)
CACCI元会長：ジェフリー・クー (台湾) ・K. K. モディ (インド)
ケン・コート (オーストラリア) ・アルフォンソ・ユーチエンコ(フィリピン)
- 1) 2008年の総会はフィリピンのマニラ近郊の避暑地タガイタイにて開催。
 - 2) 2009年の理事会は横浜で開催。(横浜CCIから横浜開港150周年に合わせてCACCI理事会を横浜で開催したいとの申し出があったのを受けて決定。)
 - 3) 若手企業家(起業家)委員会 (YEGAP) 7月25日 (水) 15:30～16:30
オーストラリア連邦中小企業・観光大臣のMs. Fran Baileyがオーストラリアの若手企業家育成の現状について講演。続いて日本YEGの原田会長が、日本YEGによるCACCI各国のYEG設立支援についてスピーチ。また、以下について決定。
 - ・ 2008年CACCI総会で発表される第2回若手企業(起業)家大賞の選考を始める。
 - ・ メンバー拡大のための小委員会を設立する。
 - ・ メンバー間の情報交換のためのE-groupを立ち上げる。
 - ・ CACCI正会員のYEG設立を支援する。
 - 4) 来賓として、ジョン・ハワード首相、Alexander Downer外務大臣が参加。



風会議

「故郷の新しい風会議」の由来

日本YEGが担うべき1つの役割として、国の各省庁(若手国家公務員)とのダイレクトな連携の場が必要であることを前提に本会議を設定した。

そこで、この場では、各地域が抱える問題、また国が抱えている問題を提示し、お互いの率直な意見交換や議論を通して、それらの問題をどう解決していくか、また具体的な行動を起こすに生じる問題が何かを、日本・ブロック・県・単会のそれぞれのレベルでそれをもとに、より具体的な活動を展開するための会議(組織)のあり方を検討し、日本YEGに対して提案する。

平成18年度

開催日	場所	概要	参加者	所属
平成18年 4月15日	帯広	第1回故郷の新しい風会議 「若手公務員と日本YEGの交流について」	鈴木 英敬 氏	経済産業省
			鈴木 清彦 氏	環境省
			須賀 千鶴 氏	経済産業省
			福富 茂 氏	総務省
平成18年 5月19日	大分	第2回故郷の新しい風会議 「地域の現状と課題について」	岡田 俊郎 氏	国土交通省
平成18年 6月17日	東京	第3回故郷の新しい風会議 「国と直接的な連携について」 「実際に地域を活性化させる方法について」	鈴木 英敬 氏	経済産業省
			安藤 保彦 氏	経済産業省
			深宮 智史 氏	経済産業省
			浅野 大介 氏	内閣府 (経産省より出向)
			鈴木 清彦 氏	環境省
平成18年 7月15日	東京	第4回故郷の新しい風会議 「構造改革特区事業と地域再生事業について」	福富 茂 氏	総務省
			黒岩 進 氏	内閣府
			服部 敦 氏	内閣府
			秋永 邦治 氏	内閣府
			関村 静雄 氏	内閣府 (国土交通省より出向)
平成18年 7月16日	東京	講演「国のカタチ、地方のカタチ」	小林 健典 氏	内閣府
			富永 哲史 氏	内閣府
平成18年 9月 2日	高知	四国ブロック大会高知大会第2分科会 第5回故郷の新しい風会議 「地域が抱える問題について」	萩原 誠司 氏	衆議院議員
			鈴木 英敬 氏	経済産業省
			安藤 保彦 氏	経済産業省
			深宮 智史 氏	経済産業省
平成18年10月 7日	野田	関東ブロック大会野田大会第5分科会 第6回故郷の新しい風会議 「地域活性化について」 (グループディスカッション)	浅野 大介 氏	内閣府 (経産省より出向)
			鈴木 英敬 氏	経済産業省
			深宮 智史 氏	経済産業省
			中村 健一 氏	近畿運輸局 (国土交通省より出向)
			須賀 千鶴 氏	経済産業省
			浅野 大介 氏	内閣府 (経産省より出向)
			西野 亮太 氏	財務省
安枝 亮 氏	警察庁			
平成18年11月10日	大分	全国大会大分大会 (YEG2万6千人研修会 故郷の新しい風フォーラム) (講演・パネルディスカッション)	藻谷 浩介 氏	日本政策投資銀行
			鈴木 英敬 氏	経済産業省
平成18年12月 2日	東京	第7回故郷の新しい風会議 「内閣府・経済産業省・環境省がそれぞれの現場で抱えている問題点について」	鈴木 英敬 氏	内閣官房
			深宮 智史 氏	経済産業省
			鈴木 清彦 氏	環境省
平成19年 2月17日	加賀	全国会長研修会加賀大会 「故郷の新しい風・総括」 (講演)	鈴木 清彦 氏	環境省
			小林 健典 氏	内閣府 (国土交通省より出向)
			田坂 広志 氏	シンクタンクソフィアバンク代表

※所属は当時のものを記載



商工会議所青年部設立25周年記念

東京サミット



平成19年8月24日(金)
ホテルニューオータニ東京

- 記念式典 14:00～15:15 [芙蓉の間]
- 特別講演 15:30～16:30 [芙蓉の間]
- 分科会 16:45～18:15
- 25周年記念パーティー 18:30～20:00 [芙蓉の間]

平成19年8月25日(土)
東京商工会議所ビル国際会議場

- 会員総会 10:00～11:30
- 閉会式 11:30～12:00

We Can Do It.今行動！全ては愛する地域のために

温故知新！集え平成の志士YEGよ！今25周年を祝う！

25年の歳月を経て、今ここに本気で行動を起こし、愛する人たちを守り、愛する地域を支える、全国のみなぎる力の結集が日本を変える。集え平成の志士YEGよ！この25周年をきっかけに、若き平成の志士達が東京に一堂に会し、過去の実績を検証しながら、未来へ繋がるYEGの大きな役割を皆で検証し、激論を交わしながら確固たるYEGの責務を提言する。

地域のリーダー達よ、必ず来てくれ！そして未来への提言を一緒に創ろう！

～全国でご活躍の皆さん、YEG東京サミットでお待ちしております！～

平成19年度日本YEG会長 原田 隆司

第90代 内閣総理大臣
安倍 晋三



祝 辞

日本商工会議所青年部設立25周年記念「YEG東京サミット」が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

皆様には、日頃から全国各地の商工会議所青年部において、地域経済の発展ならびに豊かな地域社会の創造に向けてご尽力いただいていることに対しまして、心から感謝と敬意を表します。

本日、全国400ヶ所の商工会議所青年部の皆様一堂に会し、日本商工会議所青年部の25年の歴史を回顧・総括するとともに、未来への役割を論じられることは大変意義深く、更なる飛躍への一歩となることを確信いたします。

さて、わが国経済は、バブル崩壊後の長い低迷から脱却し、新しい成長の姿を確立するための重要な時期にあります。グローバル化やこれまで経験したことのない人口減少が進む中で、今後とも経済成長を持続させ、生活の質を高くするために、引き続き構造改革に本格的に取り組んでいかなければなりません。本年6月に閣議決定いたしました「経済財政改革の基本方針2007」では、日本経済を支える中小企業の生産性向上を柱とする成長力の強化、21世紀型行財政システムの構築、持続的で安心できる社会の実現に取り組むシナリオを提示し、具体化・実行に向けて鋭意取り組んでおります。

また、各青年部の活動基盤である地域の問題につきましても、積極的に取り組んでおり、「地域の活力なくして国の活力なし」の基本方針の下、やる気のある地方が自由に独自の施策を展開し、「魅力ある地方」に生まれ変わるための「頑張る地方応援プログラム」や「中小企業地域資源活用プログラム」など、地域主役の地域再生、まちづくりができる支援措置を講じております。

地域総合経済団体である商工会議所は、中小企業支援、地域活性化などの様々な活動を展開しながら、オピニオンリーダーとして地域社会の発展に、これからも一層貢献していただきたいと考えております。そして、商工会議所青年部には、変化に富んだ時代の中で若い発想と行動力で、これまで以上に積極的に活動していただき、活力があり魅力のある地域の実現、ひいては「美しい国、日本」の実現に向けて、邁進していただくよう期待しております。

最後に、日本商工会議所青年部、ならびに各地商工会議所青年部の今後のますますのご発展と皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お祝いの言葉と致します。

所 感

今回の第一分科会（パネルディスカッション）は、ご来場頂いたメンバーには日本YEGを知り、今後の日本YEGの進むべき方向性を知る良い機会ではありますが、私達YEG中長期ビジョン提言会議としては、役員アンケート・会長アンケートを基に全国のメンバーの考え方を調査・集計し方向性を模索している段階です。

今回の分科会も今年度のYEG中長期ビジョン提言会議の活動の通過点と考え日本YEG会長経験者の皆様のご意見も参考にさせて頂き、今後の提言書に反映させて頂きたいと思っております。

第一分科会設営については、YEG中長期ビジョン提言会議メンバーのベクトルが打合せ段階からフルに発揮され、当日も大きな不安はなく設営されたと思っております。

残念なことは、事前登録人数約280名に対して実際参加人数171名という結果です。今後の事業に対して事前登録人数と実際参加人数の差をどのように回避するかが課題であると考えます。

最後に、全国からお集まり頂き第一分科会にご来場して頂きましたメンバー各位に感謝申し上げますと共に、設営にご尽力頂きましたYEG中長期ビジョン提言会議メンバー並びに当日お手伝い頂きましたメンバー各位に改めてYEGの友情を感じております。ありがとうございました。

■ 第二分科会（研修委員会）

15：30～16：30 【ホテルニューオータニ東京 翠鳳の間】

テーマ：“Re-Education～起業教育の可能性” 本物の起業家は「臨機応変な人間力」と地域や国の発展を考える「豊かな心」をもっている！

近年、少子化を伴った学生の学力低下は産業界においても深刻な問題となりつつあります。地域の将来を担う優秀な人材の育成は、産業界全体の発展に寄与すると考えられます。今回のテーマである起業教育の目的は起業家、すなわち「自ら問題を見つけ、自ら問題を解決する人間力を備え持ちながら地域や国に必要な業を起し、経営をする人」のマインドを備えた若者、社会人を育成することです。産業界と教育界の連携・交流による「起業教育の可能性」の研究・実践は、今後の地域ひいては日本の再生・発展の揺るぎなき礎となることでしょう。

今回、産業界、教育界等から、4人のスペシャリストをお招きして、パネルディスカッションを行います。我々YEGが「起業教育」とどう取り組むべきかをともに考える良い機会となることを願っております。

研修委員会では、聞くだけではなく「参加型シンポジウム」を合言葉に企画しております。



所 感

当分科会は委員会事業地域再生活性化プロジェクトにおける春の会長会議研修アンケートと秋の会長会議グループディスカッションの中間に位置づけされます。産業界、教育界、地域、官公庁の代表の皆様のお話から産業の基礎は教育にあり、連携事業が必要であることが再確認できました。今後日本商工会議所の教育再生に関する考え方をふまえてYEGの役割を探ってみたい。



商工会議所青年部設立25周年記念

東京サミット

平成19年8月25日(土)

■ 第49回会員総会 10:00～11:30 【東京商工会議所ビル国際会議場】

日本YEG設立25周年という記念すべき年を迎え、電子会議室ではなく、会員皆様と顔を合わせたリアルな会員総会を開催すべく、日本の首都である東京で会員総会を開催いたしました。

慎重審議の上、平成18年度事業会計報告(案)と収支決算(案)が承認されました。また、平成20年度会長予定者工藤哲弘が紹介されました。



■ 総括・閉会式 11:30～12:00 【東京商工会議所ビル国際会議場】

日本YEGの過去5年間を振り返るDVDを放映。その後、日本YEGの25年の歴史を解説する。近年は、商青連から日本YEGへの変革期であり、その中で日商常議員会への出席及び日商小委員会への配属がなされている事、また、「日本YEGはアジアでもリーダーシップを」との思いから国際交流を進めている事などが報告された。

そのような中で、「商工会議所青年部の歌」の誕生経過が説明された。

“当時、商青連では、商工会議所青年部(会)の会員相互の連帯と意識の高揚を図り、加えて青年部活動を広くPRすることを目的として、その歌詞を公募し、全国より44件の応募があった。その中から、福山商工会議所 商工係長(当時)石井耕二氏の歌詞が採用され、曲は愛知県立芸術大学名誉教授 石井 敏先生に依頼しました。昭和61年10月18日に開催される第6回商工会議所青年部全国大会(福島市)で作品発表と歌い始めが行われます。(昭和61年9月10日付：翔生創刊号より)”

その後、各分科会の報告へと移りました。

YEG東京サミットの総括のみならず、日本YEG25年の歴史を改めて知る事が出来ました。



日本YEG設立25周年記念「YEG東京サミット」ご参加の御礼

日本YEGは設立当初からの目的である「交流と連携」。25周年を迎えた年に全国各地のYEGメンバーと改めてこの目的が達成できましたことを大変嬉しく思います。ITがどれだけ発達しても、実際に顔を見て話さなければ本物の喜びや悲しみ、汗や涙など心を動かす感動は伝えられない。だから「YEGはリアルでなければならず、リアルでなければYEGは始まらない。」そんな思いを込め、この度の25周年記念YEG東京サミットを開催させて頂きました。

全国各地より東京に御参集頂く為には、お金も時間も相当なご負担をお願いする事になります。ご参集頂く皆様にとって、思い出に残り、役に立ち、参加したことで何かに気づいて頂ける有意義なものでなりました。当日、800名を超える方々にご参加頂き、記念式典・特別講演・各分科会・記念パーティー、そして総括と滞りなく、且つ盛大に開催できましたのも、この会の趣旨を十二分にご理解を頂いた全国の単位YEGの会長様をはじめとする多くのYEGメンバーのご協力の賜物でございます。心より感謝申し上げます。

全国YEGの連合体である日本YEGが25歳という節目を迎え、私達YEGは各地域においても、そして日本という国においても、これから更に大きな責任と役割を担い、明るく住みよい郷土づくりに貢献しなければなりません。この度の「YEG東京サミット」が、ご参加頂いた皆様、そして全国各地の単位YEGの新たな飛躍へのスタートとなれば幸甚でございます。本当にありがとうございました。

平成19年 9月
日本YEG会長 原田 隆 司

平成19年度委員会紹介

【総務委員会】

委員長

鈴木 大介 (小田原箱根YEG)

委員

安部 貴之 (塩釜YEG) 片山 朋彰 (米沢YEG) 古柄 均 (滑川YEG)
新井 正彦 (藤岡YEG) 小河 静雄 (藤沢YEG) 田中 義晴 (米子YEG)
藤田 元 (西条YEG) 小川 智之 (千葉YEG) 坂井 一欽 (新津YEG)
小林 晃 (須坂YEG) 神谷 丈一 (豊田YEG) 宇野 修市 (豊田YEG)
上田 健一郎 (彦根YEG) 井谷 智子 (吹田YEG)
大辻 嘉衛 (加古川YEG) 藤原 耕 (大田YEG)



基本方針

日本YEGは、愛する地域のために、各地単位YEGのために、会員企業のために、大きく変わろうとしています。それは各事業の変化だけでなく日本YEGという組織そのもののあり方にも及びます。
総務委員会は、円滑に会議運営を行うことで日本YEGの基礎を支え、変化する各事業がより大きな成果を上げられるようあらゆる面から支援し、その結果を迅速且つ的確に組織に反映させることを目指し、日本YEGを構成する全ての人々がそれぞれの役割に集中して取り組むことが出来るよう、合理的で臨機応変、そして客観的な活動を追及します。

【企画委員会】

委員長

加瀬 久照 (津YEG)

委員

武輪 俊彦 (八戸YEG) 中澤 省吾 (奈良YEG) 三谷 義和 (新宮YEG)
立川 宏治 (東広島YEG) 中島 信哉 (小城YEG) 太田 勝元 (長崎YEG)
真境名 エリ子 (那覇YEG) 岩田 直人 (千葉YEG) 橋 和也 (平塚YEG)
田 嘉彦 (浜松YEG) 多田 道子 (関YEG) 木村 和央 (草津YEG)
平井 湖 (大津YEG) 井上 幸一 (松山YEG) 恩地 幸一 (長崎YEG)
田中 宏典 (荒尾YEG) 甲斐 信孝 (大分YEG)



基本方針

企画委員会は『おもてなしの心』を大切に、各種事業に取り組んでまいります。今、国も地方も混沌とした世相の中で、変化ばかりを追い求めているように感じられます。確かに「変革」しなければ、取り残される時代ではありますが、それが全てではないはずと考えます。

変化すべきもの、変化してはいけないもの・・・企画委員会は全国大会、全国会長研修会並びに各地で開催されるブロック大会を通じて、主管する各地単位YEG・道府県連・ブロック連合会と連携しながら、地域に根ざした『おもてなしの心』を提供していきたいと考えています。生まれ育った自分たちの街を「地域」と呼ぶなら、地域が私たちを育ててくれたとも言えます。平成19年度スローガンにある『全ては愛する地域のために』を肝に命じて、企画委員会は事業を展開していきます。

【研修委員会】

委員長

菊地 亮 (会津若松YEG)

委員

滝田 吉宏 (郡山YEG) 今泉 裕之 (亀田YEG) 小口 富明 (下諏訪YEG)
鈴木 敏文 (高山YEG) 金子 奨悟 (浜田YEG) 山本 悦也 (宿毛YEG)
井上 伸一 (指宿YEG) 木村 公昭 (弘前YEG) 菊池 勝美 (水戸YEG)
石川 昭一 (ひたちなかYEG) 水野 久美子 (浜松YEG) 瀧脇 克之 (富山YEG)
船坂 明宏 (高山YEG) 増田 英一郎 (江南YEG) 神谷 篤 (岡崎YEG)
伊藤 貴夫 (津YEG) 光枝 裕明 (大津YEG) 川上 政治 (八日市YEG)
仲本 一樹 (北大阪YEG) 勝井 秀博 (奈良YEG) 田村 和男 (阿波池田YEG)



基本方針

研修委員会の事業内容は①商工会議所青年部会員各位のスキルアップに寄与する事業の開催②単会のレベルアップに寄与する事業の開催③地域再生及び活性化事業の開催である。この3事業を通して商工会議所の目的とその活動を再認識し全国400単位YEG、26,000人の青年部会員の意識及び資質向上を目標とする。

日本YEG出向者名簿（平成14年度～平成15年度）

平成14年度						平成15年度			
役員			専門委員			役員			所属青年部
役職	氏名	所属青年部	役職	氏名	所属青年部	役職	氏名	所属青年部	
会長	大脇 唯真	鹿児島	江崎化繊	大平 雄伸	伊勢崎	会長	鈴木 佛介	鹿児島	
直前会長	古泉 幸一	亀山	江崎化繊	武山 勝	船橋	直前会長	大脇 唯真	小山原	
副会長(企画・20周年記念事業)	鈴木 佛介	小山原	江崎化繊	成島 康之	柏	副会長(～5月)	森山 震旦	守口門真	
副会長(エンターテインメント)	永桶 裕明	美唄	江崎化繊	中戸川 洋	小山原	副会長(7月～)	小園 浩幸	高石	
副会長(研修)	大村 和利	宮津	江崎化繊	瀬戸 五	小山原	副会長	齋藤 明彦	米沢	
副会長(広報)	中塚 総一郎	児島	江崎化繊	浅井 秀明	浜松	副会長	竹川 博子	松坂	
専務理事(総務)	宗野 和博	久留米	江崎化繊	人須賀 優子	浜松	副会長	清水 雅文	倉吉	
北海道ブロック代表理事	國枝 恭二	帯広	江崎化繊	鈴木 康裕	清水	専務理事	関 学	柏	
東北ブロック代表理事	鈴木 順三	弘前	江崎化繊	小出 國雄	沼津	北海道ブロック代表理事	江戸 雅夫	留萌	
関東ブロック代表理事	遠藤 真弘	沼津	江崎化繊	鈴木 正之	沼津	東北ブロック代表理事	坪井 大雄	福島	
北陸信越ブロック代表理事	山田 雄道	諏訪	江崎化繊	八木 勇達	春日井	関東ブロック代表理事	小暮 達也	館林	
東海ブロック代表理事	牛丸 圭五	高山	江崎化繊	加藤 之也	春日井	北陸信越ブロック代表理事	宮島 隆幸	松任	
近畿ブロック代表理事	中村 寿志	長浜	江崎化繊	神谷 篤	岡崎	東海ブロック代表理事	伊藤 素近	鈴鹿	
中国ブロック代表理事	仁口 一郎	広島	江崎化繊	豊島 洋司	半田	近畿ブロック代表理事	木下 一成	加古川	
四国ブロック代表理事	味本 隆	高知	江崎化繊	原口 隆司	豊田	中国ブロック代表理事	宮永 洋一	下関	
九州ブロック代表理事	松下 一郎	枕崎	江崎化繊	高原 裕一	福井	四国ブロック代表理事	芝野 光	鳴門	
総務委員長	阿部 幹郎	福島	江崎化繊	金 英信	八日市	九州ブロック代表理事	岩切 正司	高鍋	
企画委員長	清水 雅文	倉吉	江崎化繊	中西 正憲	守口門真	総務委員長	妹尾 隆哉	鹿児島	
研修委員長	杉本 定幸	彦根	江崎化繊	藤原 広典	松江	企画委員長	後藤 健市	帯広	
広報委員長	東口 由美子	加賀	江崎化繊	江角 健治	山雲	研修委員長	浅井 秀明	浜松	
エンターテインメント委員長	石原 一夫	伊勢崎	江崎化繊	室賀 康史	岡山	広報委員長	丸山 信仁	御坊	
20周年記念事業委員長	伴田 宏	村上	江崎化繊	光永 武	山陽	エンターテインメント委員長	梶谷 俊介	岡山	
理事(研修)	齋藤 雅	深川	江崎化繊	三原 浩司	宇和島	ビジネスネットワーク委員長	高橋 茂	橋手	
理事(総務)	中山 俊一	青森	江崎化繊	備前 龍郎	長崎	理事(研修)	川田 弘康	登別	
理事(企画)	小崎 利弘	釜石	江崎化繊	黒川 豊治	中津	理事(総務)	嶋口 裕康	五所川原	
理事(記念)	西村 裕行	塩釜				理事(広報)	小崎 利弘	釜石	
理事(広報)	鳥湯 功	大館				理事(研修)	坂井 政行	気仙沼	
理事(記念)	鈴木 吉彦	山形				理事(ビジネスネットワーク)	佐藤 俊行	秋口	
理事(研修)	安田 喜好	須賀川				理事(エンターテインメント)	松口 善信	山形	
理事(広報)	島岡 宏明	土浦				理事(企画)	福地 雅人	福島	
理事(エンターテインメント)	西岡 一明	日光地区				理事(広報)	清水 俊智	勝田	
理事(記念)	田中 一幸	前橋				理事(広報)	東郷 隆浩	大田原	
理事(記念)	町田 啓介	秩父				理事(ビジネスネットワーク)	茂木 直久	館林	
理事(企画)	関 学	柏				理事(研修)	細井 道栄	春日部	
理事(研修)	福西 定敏	横須賀				理事(総務)	阿部 博志	千葉	
理事(総務)	松浦 富雄	島田				理事(研修)	山中 仁	相模原	
理事(広報)	川口 裕	五泉				理事(総務)	山田 信博	三島	
理事(総務)	福井 智一	砺波				理事(ビジネスネットワーク)	保坂 裕一	加茂	
理事(研修)	飯田 伸一	七尾				理事(ビジネスネットワーク)	平田 一彌	高岡	
理事(総務)	藤田 英則	松代				理事(企画)	吉田 守伸	小松	
理事(広報)	田中 政明喜	津島				理事(エンターテインメント)	花石 真一	中野	
理事(研修)	佐藤 正信	桑名				理事(研修)	亀山 健壽	関	
理事(企画)	林 洋三	福井				理事(企画)	森岡 厚	東海	
理事(記念)	山本 博美	綾部				理事(企画)	吉岡 正修	福井	
理事(企画)	森田 展且	守口門真				理事(広報)	山田 英樹	大津	
理事(広報)	守岡 正彦	赤穂				理事(エンターテインメント)	勝山 茂樹	宇治	
理事(研修)	岡崎 育史	奈良				理事(エンターテインメント)	小野 義信	北大阪	
理事(企画)	丸山 信仁	御坊				理事(企画)	山本 朝孝	大和高田	
理事(企画)	足立 耕太郎	米子				理事(ビジネスネットワーク)	佐井川 義晃	田辺	
理事(総務)	塚本 功治	出雲				理事(企画)	荒濱 健太郎	米子	
理事(エンターテインメント)	梶谷 俊介	岡山				理事(ビジネスネットワーク)	犬塚 勉	益田	
理事(研修)	高田 秀穂	広島				理事(企画)	室賀 康史	岡山	
理事(エンターテインメント)	河野 隆文	防府				理事(総務)	櫻井 文品	広島	
理事(研修)	松内 雅博	徳島				理事(広報)	菊池 健次	鳴門	
理事(広報)	秋山 浩志	丸亀				理事(企画)	藤田 典生	観音寺	
理事(エンターテインメント)	越智 英俊	東予市				理事(研修)	村上 幸司	今治	
理事(エンターテインメント)	定石 光治	行橋				理事(企画)	谷脇 和幸	須崎	
理事(研修)	服巻 芳史	小城				理事(総務)	津村 弘毅	大川	
理事(総務)	川西 嘉則	長崎				理事(広報)	川井 真太郎	伊万里	
理事(エンターテインメント)	平田 雄二	玉名				理事(エンターテインメント)	津崎 幸三	松浦	
理事(記念)	鳥越 繁一	津久見				理事(エンターテインメント)	高木 洋一	荒尾	
理事(広報)	岩切 正司	高鍋				理事(総務)	高橋 幹雄	佐賀関	
理事(エンターテインメント)	屋良 学	浦添				理事(ビジネスネットワーク)	名嘉 義明	那覇	
監事	加城 祐史	網走				監事	永桶 裕明	美唄	
監事	上田 崇二	北松				監事	大村 和利	宮津	
相談役	北島 重利	徳島				相談役	倉橋 純造	青森	
相談役	倉橋 純造	青森				相談役	古泉 幸一	亀田	
顧問	上橋 和則	日本源工会館所中小企業振興部長				顧問	上橋 和則	日本源工会館所中小企業振興部長	
専門委員						専門委員			
江崎化繊	後藤 健市	帯広				江崎化繊	阿部 儀明	山形	
江崎化繊	塩崎 芳也	帯広				江崎化繊	尾崎 仁	米沢	
江崎化繊	小池 賢治	新発田				江崎化繊	武田 勝	船橋	
江崎化繊	藤掛 和男	桐生				江崎化繊	谷内 久徳	松戸	
江崎化繊	多田 喜洋	館林				江崎化繊	三浦 直哉	野田	
江崎化繊	正田 隆	館林				江崎化繊	成島 康之	柏	
江崎化繊	宮岡 久芳	伊勢崎				江崎化繊	小澤 良雄	小田原	

二重橋 倶楽部

【二重橋倶楽部とは…。】

『二重橋倶楽部』とは、日本YEG出向経験者のネットワークの維持、日本YEG活動のサポート、日本商工会議所・各地商工会議所ならびに関係団体の活動の強化を目的とし、日本YEG出向経験者OB・OGにより組織され、平成19年2月に東京にて開催された設立総会を経て正式に発足いたしました。

二重橋とは日商オフィスからも見える皇居にかかる橋の名前であり、日商の内部組織である日本YEGの高き志（こころざし）と活動拠点を表しています。

二重橋倶楽部メンバーはそれぞれの街で地域経済の活性化を願い、日々御商売や地域活動に取り組んでおりますが、ふるさとに貢献したいという想いに卒業はありません。そのためにも日本YEG（旧商青連）で培った絆を大切に維持し、情報交換や交流・連携の場としての役割を担うのが『二重橋倶楽部』です。

＜二重橋倶楽部の概要＞

●目的

- ・日本YEG出向経験者のネットワークの維持
- ・日本YEG活動のサポート
- ・日本商工会議所・各地商工会議所ならびに関係団体の活動の強化

●会員資格

- ・日本YEGに出向経験があること
 - ・商工会議所会員であること
 - ・メールアドレスがあること
- ※ 単会青年部を卒業している必要はありません。
- ※ 現在出向中でも過去に出向経験があれば会員資格があります。
- ※ 基本的にはメール配信のみでの情報発信になります。

●平成19年度役員

- | | | |
|-------|--------|-----------------|
| 代表世話役 | 國枝 恭二 | (平成18年度日本YEG会長) |
| 世話役 | 荒濱 健太郎 | (平成17年度日本YEG会長) |
| 世話役 | 小園 浩幸 | (平成16年度日本YEG会長) |
- ※ 代表世話役は日本YEG直前会長が務めます。

●事業

年次総会の開催および本会の目的達成に必要な事業

●その他

固定会費はありません。会合の際は、参加費(実費)のみ徴収いたします。
サポートメンバーとして特別顧問、事務局長等、若干名お手伝い頂いております。





あ と が き

商青連発足から、四半世紀が過ぎ、私たちを取りまく環境も想像以上のスピードで変わってまいりました。記念誌の作成は、歴史を保存するという大きな役割を持ち、後世の活動を引き継いでいく人たちのための大切な情報源であると考えます。

そういった観点で、単年度制の形をとっている我々の団体として、

1. 年度毎の活動内容を把握しやすくすること
2. 時間軸（歴史）としての活動の流れを理解しやすくすること

この2点をどうすべきかを検討し作成へと向かいました。そこで、年表での事業内容の報告と単年度毎に行われた活動を横並びに記載するというページ割を取り入れました。

更には、20年以内の記録をデータ化し保存性を上げ紙の削減を図る事で環境を考慮し、見る側の視点に立ち、写真を多く取り入れることで、より具体的なイメージを持てるよう工夫をしました。

以上本記念誌作成にあたり、原田会長の提案である『教科書のように分かりやすい記念誌』というコンセプトで熟慮しました。

作成に際し、多々壁にぶつかり、日本商工会議所事務局の皆様には適切なアドバイスをいただきました。そして、ご多忙中にもかかわらず、資料を提出していただきました皆様、原稿をお願いしました皆様には心からの感謝を申し上げます。

25周年特別委員会メンバーとして、作成に携わる事は歴史を振り返る過程において、より深く、私たちの活動を学ぶ事となり、このご縁に感謝をしている次第であります。

ありがとうございました。



平成19年度
日本商工会議所青年部
25周年特別委員会 一同

日本商工会議所青年部設立25周年記念誌

We Can Do It.今行動！全ては愛する地域のために

平成20年3月発行

編集・発行：日本商工会議所青年部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2 日本商工会議所内

会長：原田 隆司（豊田YEG）

平成19年度 25周年特別委員会

委員長：木下 徳泰（七尾YEG）

委員：小池 賢治（新発田YEG）	委員：藤原 浩晃（北大阪YEG）
委員：尾山 謙二郎（富山YEG）	委員：中谷 安仰（明石YEG）
委員：中村 肇伸（加賀YEG）	委員：井出 眞悟（松浦YEG）
委員：平塚 秀樹（下館YEG）	委員：青木 繁政（下館YEG）
委員：清水 悟（ひたちなかYEG）	委員：箕口 貴也（京都YEG）
委員：新井 政秀（さいたまYEG）	委員：中下 秀雄（高砂YEG）
委員：古賀 昇（さいたまYEG）	委員：出淵 清隆（下関YEG）
委員：古橋 博（野田YEG）	委員：吉山 壽一（熊本YEG）
委員：加藤 京子（稲沢YEG）	委員：外村 秀樹（小林YEG）



日本商工会議所青年部